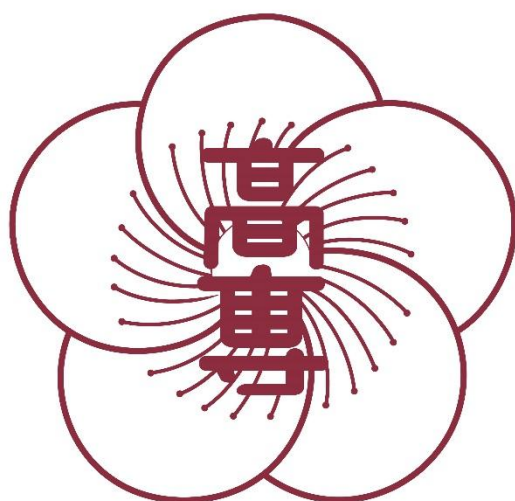


令和7年度 年次報告書

— 委員会等による活動報告及び点検評価結果 —



茨城工業高等専門学校

目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	9
3. 教育内容等（専攻科委員会）	17
4. 学生支援（学生委員会）	21
5. 寮生支援（寮務委員会）	28
6. 広報活動（広報戦略室及び広報委員会）	33
7. 学生健康支援（学生健康センター）	36
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	39
9. 情報化推進（学術総合情報センター及び情報セキュリティ管理委員会）	48
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	50
11. ダイバーシティ推進（ダイバーシティ推進センター）	57
12. 地域連携・研究活動	
（副校長（研究・産学官連携、社会連携センター、産学連携センター）	59
13. 教育組織（教員任用審査会）	67
14. 教育支援組織（事務部）	69
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	74
16. 組織・運営（総務委員会）	82
17. 予算及び施設・整備（総務委員会）	86
18. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	90
19. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	92

1. 学生の受入（入学試験委員会）

（1）取組実績

①入試広報活動

1) 地区別学校説明会

7月12日（土）から8月9日（土）の間に県内4会場（本校、つくば、日立、土浦）で学校説明会を実施した。学校概要、在校生及び卒業生の学校紹介、入試制度（WEB出願制度含む）等について説明を行った。中学生（346名）及び保護者等が参加した。

2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会

学校概要、募集要項及び具体的なWEB出願手続方法等について説明を行った。

回	日 時	場 所	参加校	合計
第1回	10月7日（火）14:00～16:00	本校視聴覚教室	39校	59校
第2回	11月19日（水）14:00～16:00	本校視聴覚教室	20校	

3) 中学校主催学校説明会

中学校からの依頼により教員や学生を派遣し本校の説明や模擬授業を行った。令和7年度はのべ16校で実施した。

4) KOSEN FES 2025

国公立高専合同説明会 2025 東京会場に出展し、本校入学希望者向けにアピールを行った。会場では、本校からは2つの科学教室と、オフライン・オンライン個別相談会、さらに高専機構本部から招待を受けた代表学生による高専PRのためのプレゼンテーションを実施し、小中学生とその保護者等へ本校の特色と特長を紹介した。

5) 進学フェア 2025

NP0 法人主催の首都圏進学フェア（水戸会場、つくば会場）、茨城進学フェア 2025（日立会場）に参加し、本校の説明を行った。

6) 一日体験入学

9月27日（土）に一日体験入学を実施した。中学生対象に各系の模擬授業及び模擬実験を行ったほか、入試制度説明、キャンパス案内等を行った。事前予約制とし、387名の中学生が参加した。

7) キャンパスツアー

7月5日（土）にキャンパスツアーを実施し、38組76名の中学生及び保護者が参加した。うち本科推薦選抜に出願した者が14名、学力選抜に出願した者が8名となっており、効果的な入試広報活動とみられるので、次年度以降も実施を検討する。

8) 個別学校見学

中学生及び保護者等からの個別依頼に対応し、施設見学や受験案内等を行った。

9)入試広報資料の作成

入試広報資料を作成し、中学校や学習塾等へ配布した。

種 類	名 称	部数	備考
リーフレット	学校説明会リーフレット	31,000 枚	
パンフレット	学校説明会資料	5,000 部	
パンフレット	キャンパスガイド 2026	7,500 部	

10)募集要項の作成

入学者募集要項は、Web 出願サイトからの出願に伴い、出願書類の様式が無い簡易版を作成し県内中学校及び近隣の他県にある過去に本校へ出願した生徒がいた中学校に配布した。

- ・令和 8 年度本科学生募集要項 … 2,500 部印刷、県内外中学校、学習塾等へ送付
- ・2026 度第 3 学年編入学試験学生募集要項（外国人対象） … 高専機構本部が作成
- ・令和 8 年度第 4 学年編入学学生募集要項 … Web サイト掲載のみ
- ・令和 8 年度専攻科学生募集要項 … Web サイト掲載のみ

②入学試験委員会の開催

1)第 1 回

開催日：令和 7 年 4 月 15 日（火）

議 題

1. 令和 7 年度入試広報について
2. 本科入試における調査書の記載について
3. 令和 7 年度入学試験委員会開催日程（案）について
4. 令和 8 年度第 4 学年編入学試験業務表日程（案）について
5. 令和 8 年度本科推薦選抜、学力検査・帰国子女・外国人特別選抜試験業務日程表（案）について
6. その他

2)第 2 回

開催日：令和 7 年 5 月 8 日（木）

議 題

1. 令和 8 年度専攻科入学者推薦選抜試験他合格者判定について
2. 令和 8 年度第 4 学年編入学学生募集要項（案）について
3. 本科入試における調査書の記載について
4. 令和 7 年度本科入学試験状況及び新入生アンケート結果について
5. 第 3 学年編入学試験（外国人対象）実施要項の改正について
6. その他

3)第3回

開催日：令和7年6月10日（火）

議 題

1. 令和8年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について
2. 本科推薦入試における定員について
3. 本科入試における調査書の様式改正（案）について
4. その他

4)第4回

開催日：令和7年9月10日（水）

議 題

1. 令和8年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について
2. 本科入試の推薦募集人員、入試制度及び推薦の出願要件（案）について
3. 入学者選抜に関する調査書等判定基準の改定（案）について
4. 令和8年度学生募集要項（案）
5. 本校ホームページにおけるアドミッション・ポリシーの記載の修正について
6. 第3学年編入学外国人留学生受入可能上限数について
7. その他

5)第5回

開催日：令和7年10月28日（火）

議 題

1. 本科入試の推薦募集人員、入試制度及び推薦の出願要件（案）について
2. 本科推薦選抜試験における「面接設問」について
3. 令和8年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について
4. 令和8年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について
5. 令和8年度入学者選抜学力検査・帰国子女・外国人特別選抜試験業務日程表（案）について
6. 令和7年度入学試験委員会開催日程（案）について
7. 2026年度独立行政法人国立高等専門学校機構第3学年編入学試験（外国人対象）の実施日程の変更について
8. 令和8年度本科入試における合理的配慮について
9. その他

6)第6回

開催日：令和7年12月17日（水）

議 題

1. 令和9年度専攻科入学者選抜試験業務日程表（案）について
2. 令和9年度専攻科学生募集要項について
3. 令和9年度入学者選抜試験日程（案）について
4. 本科入試の推薦募集人員、入試制度、推薦の出願要件、面接設問について
5. 令和8年度入学者推薦選抜試験の実施について
6. 令和8年度第3学年編入学留学生受入について
7. 令和8年度本科推薦選抜における合理的配慮について
8. その他

7)第7回

開催日：令和8年1月14日（水）

議 題

1. 令和8年度入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. その他

8)第8回

開催日：令和8年2月3日（火）

議 題

1. 令和8年度入学者学力選抜試験の実施について
2. 帰国子女特別選抜の名称について
3. 令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）における変更について
4. 令和9年度専攻科学生募集要項について
5. その他

9)第9回

開催日：令和8年2月12日（木）

議 題

1. 令和8年度入学者選抜学力検査他合格者判定について
2. 令和8年度入学者選抜学力検査（追試験）の実施について
3. 入試問題、公表用解答、出題の意図の公開について
4. その他

10) 第 10 回

開催日：令和 8 年 2 月 18 日（水）

議 題

1. 令和 8 年度入学者選抜学力検査（追試験）合格者判定について
2. その他

11) 第 11 回

開催日：令和 8 年 3 月 25 日（水）

議 題

1. 入試問題、公表用解答、出題意図の公開について
2. 専攻科の面接について
3. その他

③入学試験の実施

1) WEB 出願及び入学料電子決済

令和 8 年度本科入学者選抜試験も、WEB 出願（miraicompass）により出願を受付した。また、入学料電子決済システムを導入したことにより、入学予定者が直接銀行に行く必要が無くなったり、平日夜間や土日祝日でも振込サービスが可能になった。

2) 本科入学試験実施のガイドライン（高専機構学務課）に基づき試験を実施した。

◇推薦選抜（会場：本校）

- ・WEB エントリー及び書類提出期間：令和 7 年 12 月 1 日（月）～令和 7 年 12 月 15 日（月）
- ・本試験日：令和 8 年 1 月 9 日（金）
- ・合格内定者発表：令和 8 年 1 月 16 日（金）

◇推薦選抜【追試験】（会場：本校）

- ・実施なし

◇学力選抜（会場：本校・つくば国際会議場）

- ・WEB エントリー及び書類提出期間：令和 8 年 1 月 6 日（火）～1 月 21 日（水）
- ・本試験日：令和 8 年 2 月 8 日（日）
- ・合格者発表：令和 8 年 2 月 16 日（月）

※帰国子女特別選抜試験（会場：本校）

- ・WEB エントリー及び書類提出期間：令和 8 年 1 月 6 日（火）～1 月 21 日（水）
- ・本試験日：令和 8 年 2 月 8 日（日）
- ・合格者発表：令和 8 年 2 月 16 日（月）

※外国人特別選抜試験は無し

◇学力選抜【追試験】

- ・追試験日：令和8年2月15日（日）
- ・合格発表：令和8年2月19日（木）

○令和8年度本科入学者試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜		
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数
国際創造工	200	281 (51)	278 (50)	209 (38)	1.4	106 (28)	106 (28)	64 (14)	216 (37)	211 (35)	144 (24)

※下段（ ）は女子で内数

学科	帰国子女特別選抜			外国人特別選抜			入学者数
	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
国際創造工	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	206 (37)

※下段（ ）は女子で内数

◇入学手続き：令和8年2月26日（木）に開催した。大教室で前半の部・後半の部と二部制で全体説明会を実施した。

3) 2026年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験が実施された。

※本年度は本校への出願がなかった。

4) 令和8年度第4学年編入学生選抜試験

- ・WEBエントリー及び出願書類提出：令和7年7月16日（水）～7月31日（木）
- ・編入学試験：令和7年9月8日（月）
- ・合格者発表：令和7年9月12日（金）
- ・編入者説明会：令和7年12月9日（火）
- ・入学手続説明会：令和8年3月9日（月）

○ 令和8年度第4学年編入学者試験状況（募集人員：若干名）

募集主専攻	出願者数（高校：科）	受験者数	合格者数	入学者数
機械・制御系	4（普通科3、情報技術1）	2	2	2
電気・電子系	0	0	0	0
情報系	4（情報技術2、 総合工学1、電気情報1）	4	1	0
化学・生物・環境系	1（環境化学1）	1	0	0
合 計	9	7	3	2

5) 令和8年度専攻科入学者選抜試験

推薦選抜

- ・ 出願書類受付：令和7年4月22日（火）～4月23日（水）
- ・ 面接試験：受験者が全員本校学生のため面接はなし。
- ・ 合格者発表：令和7年5月13日（火）

※タイ政府奨学金留学生特別推薦選抜より2名出願

学力選抜

- ・ 出願書類受付：令和7年5月26日（月）～5月28日（水）
- ・ 学力検査：令和7年6月7日（土）

※社会人特別選抜は、出願者なし

- ・ 合格者発表：令和7年6月12日（木）

○ 令和8年度専攻科入学者選抜試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集人員：20人）

専攻科コース	推薦選抜		学力選抜			タイ政府奨学金留学生特別推薦選抜	入学者数
	出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数		
機械工学	6	6	1	1	0	1	7
電気電子工学	5	5	12	11	7	0	8
情報工学	5	5	15	15	6	0	7
応用化学	5	5	12	12	10	1	11
合計	21	21	40	39	23	2	33

他高専・社会人の出願者なし

④令和8年度外国人留学生の受入

学年	主専攻（系）	性	国籍	身分	備考
3年	機械・制御系（制御コース）	男	チュニジア	国費	
	電気・電子系	男	スリランカ	国費	
	情報系	女	スリランカ	国費	
	情報系	男	タイ	政府派遣	
	化学・生物・環境系	男	モンゴル	国費	

（2）自己評価（改善含む）及び課題

①入試広報活動

KOSEN FES や茨城県進学フェアなどの進学イベントにも積極的に参加した。地区別学校説明会では、本校学生及び本校卒業生による学校説明を主とし、より受験生に近い視点で学生生活や受験の取組等を伝えることを行った。また、本校会場での説明会では各系の紹介、学食、学寮見学などの取組をおこなった。

②本科入学試験

帰国子女特別選抜の出願があった（1名）。

③学力選抜（つくば会場）

つくばエクスプレス線沿いの中学生も受験しやすいように県南の入試会場として、つくば国際会議場でも入試を実施した。県南地区の受験者は以下のとおりであった

＜県南地区受験者＞

R8年度	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
60名	58名	61名	84名	37名

④過去5年間の学力検査による選抜合格者の5教科合計（600点満点）の最高点、最低点及び平均点は次のとおりである。

	最高点	最低点	平均点	志願倍率
令和4年度	556	362	434	1.4
令和5年度	527	382	440	1.6
令和6年度	541	386	448	1.6
令和7年度	553	392	460	1.5
令和8年度	501	357	426	1.4

（3）今後の展開

① 昨年度の志願倍率1.5倍を下回る結果となった。志願倍率減少の要因を分析し、広報活動を積極的に行い、志願倍率の増加を目指して戦略的に取り組みを行っていく必要がある。

2. 教育内容等（教務委員会）

令和7年度教務関係日程

4月4日（金）：入学式

4月7日（月）：始業式

5月29日（木）～6月4日（水）：前期中間試験

7月25日（金）～8月1日（金）：前期期末試験

8月8日（金）：前期授業終了

8月18日（月）～8月22日（金）：夏季集中講義を対面形式で実施

9月22日（月）：後期授業開始

11月7日（金）～11月13日（水）：後期中間試験

1月23日（金）～1月30日（金）：後期期末試験

3月3日（月）：登校日（5年）

3月9日（月）：登校日（1～4年）

3月14日（土）：卒業式・修了式

3月23日（月）：終業式（1～4年）

（1）取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

①キャリア教育

1年生の国際創造工学基礎において、キャリアデザイン基礎を各クラス5回に渡り行い、自己理解、産業と職種理解、企業の方による企業講話、留学や海外就職について及び進学についてキャリア教育を実施した。

2年生はHRの時間に1回及び3月の登校日にキャリア教育を実施した。内容は、進学ガイダンス：大学編入や専攻科進学について、新3年生向けキャリア教育オリエンテーション

3年生はHRの時間及び放課後に6回のキャリア教育を実施した。内容は、キャリア形成講話、自分史作成の方法と意味合い、業界・職種研究、進学ガイダンス、キャリア講演会3回（企業2社、本校OB1名）、なぜ学びどう生きるかレポート

4年生及び専攻科1年生を対象として、4月インターンシップ説明会、5月インターンシップ企業説明会、外部講師によるキャリア講座5回、11月開催の企業研究会（参加企業63社、実施場所ホテルクリスタルパレス）12月開催の大学等進学説明会（参加6大学+本校専攻科、本校開催）を開催した。

5年生及び専攻科2年生を対象として、卒業・修了前キャリア教育として、社会保険労務士による労働法講座（オンデマンド配信）を実施した。

②ボランティア活動の支援

無報酬のボランティア活動で総活動時間が 30 時間を超えるものは、学生からの申請を受けて「社会貢献」として単位化している。令和 7 年度の「社会貢献」の単位認定者は 15 名であった。うち 14 名は、本科地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム (MIPPE プラス) の参加者である。

③モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の取組推進

CBT を 12 月 3 日 (水) に本科 1 年生 (化学、数学)、12 月 10 日 (水) に本科 2 年生 (数学)、12 月 17 日 (水) に本科 3 年生 (物理、数学) を対象に実施した。また、1 月 20 日 (火) に情報系 3 年生 (プログラミング)、2 月 4 日 (水) に情報系 4 年生 (ソフトウェア)、12 月 26 日 (金) に情報系 5 年生 (その他の学習内容) を対象に実施した。

④インターンシップの単位認定

令和 7 年度のインターンシップの単位認定者は全体で 149 名 (本科 122 名、専攻科 27 名) であった。うち専攻科生 8 名は MIPPE プラスの参加者である。

⑤セキュリティを含む情報教育

「情報リテラシー」の授業において、セキュリティを含む情報教育を行った。

⑥Web による履修登録

令和 7 年度も選択科目の履修申請を Google forms による Web 登録方式にて行い、登録作業の効率化を図った。

⑦主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科 9 期生 (令和 7 年度入学) の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。希望した系への配属割合は、第 1 希望 183 名 (92.0%)、第 2 希望 11 名 (5.5%)、第 3 希望 4 名 (2.0%)、第 4 希望 1 名 (0.5%) であった。

<主専攻>	機械・制御系	79 名
	電気・電子系	40 名
	情報系	40 名
	化学・生物・環境系	40 名
<副専攻>	機械・制御系	46 名
	電気・電子系	39 名
	情報系	41 名
	化学・生物・環境系	38 名
	グローバル系	35 名

⑧数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の認定について

文部科学省に数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）を申請し、令和7年8月26日付けで認定を受けた。（有効期限は令和12年3月31日まで）

⑨デジタル学生証アプリ（MyID）を利用した出席確認システムの導入について

→令和8年度は本科1年生のみ試行する。令和9年度に全学生に導入する予定。

⑩規則等に関すること

ア) 本校の点検・評価体制の見直しにより、専攻科委員会と合同で以下の申合せを制定した。

- ・ 学生による授業アンケートに関する申合せ
- ・ シラバスの作成、並びに教員相互チェック申合せ
- ・ 教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ
- ・ シラバスの有効活用に関する申合せ

イ) 感染症等の発生に伴う学級担任及びコース主任の手続きに関する申合せの一部改正

→学生に感染症が発生した際の、担任・コース主任の手続きを簡素化・明確化した。

ウ) 成績に対する異議申し立て制度の明文化及び追試験の成績の取扱い変更に伴い、以下の規則等の一部を改正した。

- ・ 学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程
- ・ 再試験の運用に関する申合せ
- ・ 欠席, 欠課, 遅刻及び早退に関する特別取扱要領
- ・ 追試験実施要領

⑨令和7年度教務委員会

令和7年度は以下のとおり委員会を5回開催し、メール審議を17回行った。

回数	開催日	議題
メール 第1回	令和7年4月3日	1. 学生1名の転学について 2. 他大学等履修申請について →長岡技科大（第1学期）2科目の履修申請
第1回 （専攻科 委員会 と合同）	令和7年4月23日	1. 評価関係の申合せの制定について 2. グローバル研修の単位認定について（資料2） （教務委員会のみ） 1. 茨城工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の運用指針及び申請について

メール 第2回	令和7年5月21日	1. 知識・技能審査による単位認定について →49名延べ58件
第2回	令和7年6月4日	1. 知識・技能審査による単位認定について 2. 令和7年度学生による授業アンケート実施要領（案）について 3. 令和6年度茨城工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の自己点検評価について 4. その他
メール 第3回	令和7年6月24日	1. 他大学等の履修について →茨城大学（前学期集中）の履修申請 2. R07 グローバル（特別）研修について →ルーアン応用科学大学研修、シンガポールスマート&グローバル研修、マレーシア フィールド&英語研修に参加した学生の単位振替の認定
メール 第4回	令和7年7月18日	1. 学生1名の転学について 2. 他大学等の履修について→本科生3名の放送大学1科目（2025年度2学期）の履修申請 3. 知識・技能審査による単位認定について →8名延べ10件
メール 第5回	令和7年8月18日	1. 学生1名の退学について 2. 令和7年度 MIPPE プラスにおける社会貢献活動について →MIPPE プラス課題解決型インターンシッププログラム3件の実施について 3. グローバル（特別）研修（茨城高専グローバルキャンプ）の事前申請について
メール 第6回	令和7年8月28日	1. 学生5名の休学について 2. 学生3名の退学について 3. 知識・技能審査による単位認定について →4名延べ4件
メール 第7回	令和7年8月29日	1. 令和7年度 MIPPE プラスにおける社会貢献活動について（追加1名）
メール 第8回	令和7年9月1日	1. 令和7年度 MIPPE プラスにおける社会貢献活動について（再追加1名）
メール 第9回	令和7年9月16日	1. 学生1名の休学について 2. 学生2名の退学について

		3. 令和7年度研究生の研究期間短縮について →研究生1名の研究期間について、「令和7年4月1日から令和8年3月31日」から「令和7年4月1日から令和7年9月30日」に短縮する。 4. 知識・技能審査による単位認定について →1名延べ2件
メール 第10回	令和7年9月30日	1. 他大学等の単位申請について →専攻科生1名の岐阜高専1科目（R07後期）の履修申請
メール 第11回	令和7年10月29日	1. 知識・技能審査による単位認定について →10名延べ11件 2. グローバル（特別）研修（茨城高専グローバルキャンプ）の単位認定について（本科生12名）
第3回	令和7年11月11日	1. 本科・専攻科に関する教務関係の自己点検・評価に係る申合せの一部改正について 2. 感染症等の発生に伴う学級担任及びコース主任の手続きに関する申合せの一部改正について 3. 本科DPとCPの点検について 4. 令和8年度行事予定表について 5. 授業アンケートについて 6. 教育課程表の改編について 7. 令和8年度時間割編成の編成方針について 8. 令和8年度シラバスについて 9. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）について 10. 分野横断的能力の自己点検について 11. その他
メール 第12回	令和7年12月17日	1. 知識・技能審査による単位認定について →9名延べ9件 2. 他大学等開講科目の単位認定について →茨城大学開講科目を受講した学生1名及び長岡技術科学大学開講科目を受講した学生1名の単位認定について 3. 実践英語の単位認定申請について →海外語学研修（2025年フィリピンセブ島語学研修）を修了した本科3年生6名の「実践英語」の単位認定について
第4回	令和7年1月16日	1. 学内規則等の一部改正について

(専攻科 委委員会 と合同)		2. 在校生、卒業・修了生、就職先・進学先へのアンケートについて (教務委員会のみ) 1. 知識・技能審査による単位申請について 2. 他大学等の単位申請について 3. 社会貢献活動による単位認定申請について 4. 4M1 学生の「病欠等による欠席オーバーの取扱いに関する申合せ」への適用について 5. 令和8年度行事予定表(修正案)について 6. 大学編入推薦基準の申合せ改正の協議依頼について 7. デジタル学生証について 8. 一般科目教員と専門科目教員の懇談会について 9. その他
メール 第13回	令和8年2月9日	1. 知識・技能審査による単位認定について →2名延べ2件 2. インターンシップ(企業実習)の単位認定について →121名(122件)の企業実習の単位認定 3. グローバル(特別研修)の事前申請について →以下3件の研修終了後、必要書類を学生課に提出することで、本科生の場合はグローバル研修、専攻科生の場合はグローバル特別研修の単位振替の申請についての審議(研修名) No.1 シンガポールスマート&グローバル研修 No.2 マレーシア語学研修&フィールドスタディ No.3 ルーアン応用科学大学研修
メール 第14回	令和8年2月12日	1. 規則等の一部改正について ①学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程 ②感染症等の発生に伴う学級担任及びコース主任の手続きに関する申合せ
メール 第15回	令和8年2月26日	1. 社会貢献活動の単位認定について →学生1名の社会貢献活動の単位認定について 2. 社会貢献活動の事前申請について →学生1名の社会貢献活動実施の事前申請について
メール 第16回	令和8年3月9日	1. 社会貢献活動の単位認定及び卒業の認定について →学生1名の社会貢献活動の単位認定について、また、単位認定後の当該学生の卒業の認定について

第 5 回	令和 8 年 3 月 24 日	1. 学生 4 名の休学について 2. 学生 3 名の退学について 3. 学生 2 名の転学について 4. 学生 2 名の復学について 5. 今後の検討事項について
メール 第 17 回	令和 8 年 3 月 31 日	1. 他大学等の単位申請について →本科生 2 名及び専攻科生 1 名の豊橋技科大計 5 科目 (R08 前期) の履修申請について 2. 退学学生 1 名の再評価結果及び修了認定について →R8. 3. 31 付退学が決定した学生 1 名の再評価結果がすべての科目で合格となったことに伴い、当該学年の修了を認めてもよいかについての審議。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ①教育課程の改定については、授業 90 分化、特定の系への人気の偏り、非常勤講師の人数等の課題を踏まえつつ、WG等を設置して検討予定である。
- ②留年（原級留置）率の低減に向けての施策については、カリキュラムの改訂とも関連させながら、成績評価の方法、再試験制度の見直し、学習サポートなどの支援のあり方等について今後検討していく。
- ③本校の DP・CP の見直しについて
 - ・各系が育成しようとする人材像を DP に入れる。
 - ・現在の CP は「MCC を満たすために教育課程を編成する」といった書き出しになっているが、「DP を達成するために教育課程を編成する」でないといけない。
(その上で、本校の CP によって MCC も満たす、といった形にしないといけない)
 - ・DP は 4 項目、CP は 11 項目。DP と CP の関係性をわかりやすくする。
- ④令和 8 年度に受審する機関別認証評価に備えて、これまで自己点検・評価委員会が実施していた教務に係る業務（授業アンケート等）が、令和 7 年度から教務委員会に移管された。今後は各種アンケートの結果の検証とそれに基づく改善の検討を行う。
- ⑤インターンシップに関する規則の見直し

現状は古い規則のままであるため、キャリア支援室の意見を取り入れながら、見直しを進める。
- ⑥高専機構の内部監査で指摘された、学生が無断欠席した場合の学内及び保護者等への連絡体制構築の対応について

無断欠席対応の手引きの作成に向けて今後検討を進める。

(3) 今後の展開

- ①教育課程の変更について、WG等を設置して検討していく。
- ②その他、原級留置の低減、本校のDP・CPの見直し等の諸課題について、引き続き検討を進める。
- ③教務委員会で行う教務に係る評価業務について、PDCAサイクルが効果的に回るよう業務を進める。
- ④デジタル学生証アプリ（MyiD）を利用した出席確認システムの全学年導入に向けて準備を進める。

3. 教育内容等（専攻科委員会）

（1）取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

①地域社会及び産業界との連携

令和7年度の特別実験においても、地元の企業が抱える様々な課題を提供してもらい、本校の学生がそれらの課題解決に取り組み実践力を養うことを目的とした地域相互誘起型課題解決実践教育プログラム（Ibaraki Regional Mutually Inductive Problem-solving Practical Education Program 略して「iR-MIPPE プログラム」）を実施した。

協力企業名：株式会社 HIRANUMA、株式会社 アンテックス、株式会社 ナジコ、田島ルーフィング株式会社

令和8年2月5日（木）に本校視聴覚教室において成果発表会を行った。協力企業の方、外部講師の方にも成果発表会にご出席いただいた。

また、キャリア教育の一環として、令和7年5月16日（金）に、東京エレクトロン株式会社 人事部 スタッフィンググループ 阪井 素子 氏及び TEL IXL_開発共通 プロジェクトリーダー 小林 義之 氏に職種理解（製造業）について、また、令和7年5月30日（金）に、有限会社アーツプランディア 代表 郡司 敦子 氏に金融教育について、専攻科1年生を対象として講演いただいた。

②特例適用専攻科に係る変更の届出

令和8年度入学生から適用する学修総まとめ科目の指導教員について5名（新規4名）が申請を行い、2名が機械工学、1名が機械工学と電気電子工学、1名が応用化学の区分で申請が認められた。このことにより、令和7年度末で退職及び異動する教員を除き、令和8年4月1日現在での学修総まとめ科目担当教員は36名となった。

③特例適用による学位申請

特例適用専攻科として、学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請を独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に行い、専攻科を修了した2年生26名が学位を取得した。

④令和7年度専攻科委員会

令和7年度は以下のとおり委員会を4回開催（うち、2回が教務委員会との合同会議）し、メール審議を2回実施した。

回数	開催日	審議事項
第1回 (教務委員会と合同)	令和7年4月23日	1. 評価関係の申合せの制定について 2. その他
第2回	令和7年10月27日	1. インターンシップの単位認定について 2. 専攻科学生の学会活動補助の取扱いに関する申合せの一部改正について 3. 専攻科に関する自己点検・評価に係る申合せの一部改正について 4. 専攻科のCP・DPの点検について
第3回 (教務委員会と合同)	令和8年1月26日	1. 学内規則等の一部改正について 2. 在校生、卒業・修了生、就職先・進学先へのアンケートについて 3. その他
第4回	令和8年2月12日	1. インターンシップの単位認定について 2. 専攻科2年生の単位修得認定について 3. 専攻科APに沿った学生の受入確認について 4. 卒業、修了後5年までの方からのアンケート結果の検証について 5. 担当教員当たりの受け持ち可能学生数について 6. その他
メール (第1回)	令和7年7月22日	1. 現在休学中の学生1名のインターンシップの実施時期について
メール (第2回)	令和7年9月1日	1. 学生(1名)の復学について

⑤規則等の制定及び改正について

1) 本校の点検・評価体制の見直しにより、教務委員会と合同で以下の申合せを制定した。

- ・学生による授業アンケートに関する申合せ
- ・シラバスの作成、並びに教員相互チェック申合せ
- ・教員相互による定期試験問題等のチェックに関する申合せ
- ・シラバスの有効活用に関する申合せ

2) 後援会からの専攻科学生の学会活動補助額変更に伴い、「専攻科学生の学会活動補助費の取扱いに関する申合せ」の一部を改正した。

⑥茨城大学との連携による先端科学技術講演会について

下記のとおり本科生、専攻科生及び教職員を対象として先端科学技術講演会を計3回開催した。

令和7年6月19日（木）：第10回

講演内容：「浮いて回る！磁気浮上型人工心臓 ～医用メカトロニクスによるライフサポート技術の創生～」

講師：長 真啓（大学院理工学研究所 機械システム工学専攻 准教授）

令和7年10月2日（木）：第11回

講演内容：「強い鋼を創（つく）る」

講師：小林 純也（工学部機械システム工学領域 教授）

令和7年12月18日（木）：第12回

講演内容：「熱を電気に換える材料」

講師：池田 輝之（大学院理工学研究科物質科学工学領域 教授）

また、令和7年度からの新たな取組みとして、本校の専攻科1年生が茨城大学工学部の各研究室を見学し、最新の先端科学技術に関する研究について学ぶことを目的とした「茨城大学工学部研究室見学会」を令和7年9月25日（木）に開催した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

①専攻科の特別実験のあり方について

今後の専攻科で行われている「特別実験」（MIPPE プログラム）のあり方について、変更案を提示し、検討を行った。変更案について様々な意見があり、次年度の前期中までにあり方をきめることとし、それまでに変更案を改善していくこととした。

②10号館の各実験室の使用状況について

校長から10号館の各コースで使用している実験室等が利活用されていないのではないかという指摘があったことから、現状の実験室等の使用状況について調査した。今度は10号館の各部屋のあり方について検討していく。

③専攻科のディプロマポリシー（DP）の見直しについて

専攻科のディプロマポリシー（DP）について点検を行い、「身に付けた能力を活用できること」を記載する必要があるのではないかという指摘があったことから、今後見直しを実施することとした。

(3) 今後の展開

- ①「特別実験」(MIPPE プログラム) の変更案について検討していく。
- ②10 号館の各実験室の使用状況について検討していく。
- ③専攻科のディプロマポリシー(DP)の見直しを実施していく。

4. 学生支援（学生委員会）

（1）取組実績

① 課外活動支援

課外活動の充実を図るため、専門的な知見を有する外部指導者の活用として、以下の部活においてコーチの委嘱を行い、指導体制の充実を図った。

- ・ロボット部、茶道部、吹奏楽部、卓球部、サッカー部、ソフトテニス部、剣道部

各種体育大会及びコンテスト等で、以下のとおり成果を収めた。

■運動部

【関東信越地区高等専門学校体育大会】

- ・陸上競技：男子走高跳 1位 大塚隆道（4年）
：男子走幅跳 1位 吉田光太郎（5年）
：男子三段跳 1位 吉田光太郎（5年）
：女子走高跳 1位 吉岡琉愛（1年）
：女子走幅跳 1位 足立結菜（2年）
：男子100m 3位 洞口拓弥（1年）
：男子4 x 100m 3位 安藤伶真（3年）、三浦琉生（1年）
- ・水泳競技：男子自由形400m 2位 梅内星弥（5年）
：男子自由形800m 2位 梅内星弥（5年）
：男子背泳200m 2位 上久保結斗（2年）
：男子平泳100m 2位 大竹亜門（3年）
：男子平泳200m 2位 大竹亜門（3年）
：男子バタフライ100m 3位 川上昞芽（2年）
：男子個人メドレー200m 3位 川上昞芽（2年）
：男子フリーリレー4x100m 2位 大竹亜門（3年）、上久保結斗（2年）
梅内星弥（5年）、川上昞芽（2年）
- ・バレーボール競技：男子 1位
- ・サッカー競技：男子団体 2位
- ・テニス競技：男子団体 1位
：男子個人シングルス 3位 猪狩遥斗（4年）・片庭辰己（4年）ペア

- ・ソフトテニス競技：女子ダブルス 1 位 松葉萌花（2 年）、吉田苺香（2 年）
：女子ダブルス 3 位 山口真央（3 年）・須之内咲夏（3 年）

- ・卓球競技：男子団体 2 位
：男子個人戦シングルス 3 位 山崎新太（2 年）
：男子個人戦ダブルス 3 位 重松裕汰（5 年）・石井漣一郎（3 年）
：女子個人戦シングルス 1 位 田尻ひな（1 年）

- ・柔道競技：男子団体 5 人制 3 位
：男子団体 3 人制 2 位
：男子個人 66 kg 級 3 位 高久隆之介（4 年）

- ・剣道競技：男子団体 1 位
：男子個人 1 位 武石翔吾（2 年）、3 位 岡崎沙人（4 年）

【全国高等専門学校弓道大会 関東信越地区予選】

- ・弓道競技：男子団体 優勝
：女子団体 優勝
：男子個人 1 位大野優斗（4 年）、2 位寺門壮真（2 年）、
3 位加藤圭太（2 年）
：女子個人 2 位谷津心優（4 年）、3 位矢野小春（4 年）

【全国高等専門学校体育大会】

- ・陸上競技：男子走高跳 2 位 大塚隆道（4 年）
：男子走幅跳 2 位 吉田光太郎（5 年）
：女子走高跳 1 位 吉岡琉愛（1 年）
：女子走幅跳 1 位 足立結菜（2 年）

- ・バレーボール競技：2 位

- ・卓球競技：女子個人戦シングルス 2 位 田尻ひな（1 年）

- ・サッカー競技：3 位

【日本学生選手権】

- ・水泳高飛込 第5位：末次 心温

【全国高等学校選抜卓球大会】

- ・女子シングルス 出場 田尻ひな（1年）

【関東高校選抜新人陸上競技大会】

- ・陸上女子走高跳 出場 吉岡琉愛（1年）

■文化部

【アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2026】

- ・関東甲信越地区大会出場：ロボット部
 - ・茨城高専Aチーム「一夜城 衛天門」：予選敗退
 - ・茨城高専Bチーム「御開帳 水戸黄門」：予選敗退

以下大会において運営を担当し、大会の円滑な実施に寄与した。

【関東信越地区高専体育大会】

- ・野球競技：6月21日（土）～22日（日）@茨城県営球場、茨城大学野球場

② 学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示、ホームページ掲載及び保護者への文書通知等により、計画的かつ継続的に情報提供を実施した。

- ・奨学金一覧（○）は受給実績あり
 - ・日本学生支援機構 貸与型（○）
 - ・日本学生支援機構 給付型（○）
 - ・若築建設奨学金（○）
 - ・岸川光男記念奨学基金（○）
 - ・中川育英会奨学金（○）
 - ・天野工業奨学金（○）
 - ・自立応援入学支援金（○）
 - ・オリエンタルモーター奨学財団奨学金（○）
 - ・川村育英会（○）

- ・山新育英財団奨学金(○)
 - ・日本国土開発未来研究財団奨学金(○)
 - ・宇野澤奨学会(○)
 - ・住友電工グループ社会貢献基金 (○)
 - ・龍ヶ崎市奨学金 (○)
 - ・富山文化財団奨学金(○)
 - ・朝鮮奨学会(○)
 - ・水戸市奨学金 (○)
 - ・龍ヶ崎市奨学金 (○)
 - ・井門奨学財団 (○)
 - ・鶴見奨学研究助成財団(○)
 - ・日本国土開発未来研究財団 (○)
 - ・茨城高専奨学金 (○)
 - ・ウシオ財団奨学金
 - ・ニコン奨学金
 - ・コマツ奨学金
 - ・金川千尋未来化学財団
 - ・関電工奨学金
 - ・あしなが育英会奨学金
 - ・交通遺児育英会奨学金
 - ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
 - ・関育英奨学会
 - ・本庄国際奨学財団奨学金
 - ・フソウ育英会奨学金
 - ・ビヨンドトゥモロー奨学金
 - ・Unicage奨学金
 - ・関電工奨学金
 - ・公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金奨学金
 - ・茨城県奨学金
 - ・ひたちなか市奨学金
 - ・日立市奨学金
 - ・大洗町奨学金
-
- ・入学科免除 (減免): 1 名
 - ・授業料免除 (減免) 前期: 全額免除 (減免) 75名 2/3 減免12名 1/3 減免9名

- ・授業料免除（減免）後期：全額免除（減免）77名　2/3 減免11名　1/3 減免7名
- ・日本学生支援機構奨学生　第1種　8名、　第2種　4名

③ 学生会活動

- ・学生会長を選出するとともに、学生会と学校長の懇談会及びリーダーズミーティング当を実施し、学生の主体的な活動運営の推進を図った。
- ・令和8年度学生会長選出　大津　悠叶（電気・電子系3年）

④ イベント

- ・校内体育大会　10月8日(水)
- ・芸術鑑賞会　11月20日(木)　内容：音楽「東京サロンシンフォニーオーケストラ」

⑤ 学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

- ・非行防止講演会（1年）
- ・サイバー犯罪防止講演会（2年）
- ・薬物乱用防止講演会（2年）
- ・交通安全防止講話（1年・3年）
- ・消費生活講演会（3年）
- ・選挙制度セミナー（4年）

また、ひたちなか市主催「社会を明るくする運動」に学生会執行部が参加し、社会貢献活動を行った。

⑥ 施設改修

- ・熱中症対策として、グラウンドに避暑施設を設置し、課外活動時の安全確保に資する環境整備を行った。

⑦ 預り金

- ・預り金規則に基づき、5団体が前年度から使用継続した。

⑧ 懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

- ・懲戒処分に該当する事案は認められなかった。

⑨ いじめ等への対応

- ・いじめ防止基本計画に基づき、いじめ未然防止に取り組んだ。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ①体育大会及び各種コンテストにおいて、全国大会及び上位大会への出場者を輩出するなどの実績が認められた。課外活動については、安全管理体制の下、健全な心身の育成並びに協調性及び責任感の涵養に資する取組として実施した。今後は、安全対策の更なる強化及び活動環境の整備の推進が必要である。
- ②教育機会の確保の観点から、奨学金制度、授業料免除及び就学支援制度に関する情報提供を計画的に実施した。これにより、経済的理由による修学継続への影響の軽減に一定の効果があったものと認められる。今後は、制度周知の一層の充実及び個別相談体制の強化を図る必要がある。
- ③学生会活動については、学生の自主性を尊重しつつ、必要な指導及び支援を実施し、組織運営の円滑化が図られた。今後は、学生の主体的な企画・運営能力の向上に資する支援の充実が求められる。
- ④芸術鑑賞会では、東京サロンシンフォニーオーケストラによる演奏を鑑賞し、学生から大変好評を得た。
- ⑤学生への厚生補導の一環として学年別にセミナーを実施した。専門家による講話を通じて実践的な知識や最新の情報を得る機会となり、学生の意識向上に寄与した。
- ⑥熱中症対策としてグラウンドにプレハブの避暑施設を設置し、適切な休憩環境を整備することで、学生の安全確保と課外活動の円滑な実施に寄与した。
- ⑦預り金について適切な管理および運用を行った。
- ⑧懲戒処分に該当する事案は認められなかった。引き続き未然防止に向けた指導体制の維持・強化を図る必要がある。
- ⑨いじめ防止基本計画に基づき、アンケート調査及び指導を継続的に実施した。重大事案の発生は認められず、一定の抑止効果があったものと考えられる。今後も、早期発見及び早期対応に係る体制の強化を図る必要がある。

(3) 今後の展開

学生の安全確保及び教育環境の向上を図るため、環境整備を計画的に推進する必要がある。

る。あわせて、課外活動支援、経済的支援制度の周知及び学生指導体制の充実を図り、学生が安心して学修及び学校生活に取り組むことができる環境の維持・向上に努めるものとする。

5. 寮生支援（寮務委員会）

（1）取組実績

①寮生数について

年度当初寮生数	212 人	入居率 76.5%
年度途中入寮者	0 人	
年度途中退寮者	5 人	
年度末寮生数	207 人	入居率 74.7%（卒寮生及び年度末退寮生を含む）

3年生までを基本とした学寮であるが、空室がある場合は、入寮更新を希望する新4・5年生のうち、自宅からの距離、リーダーシップ、素行、成績を鑑みて順位付けを行い、指導寮生（補助）として入寮更新を認めている。

入居率については、それぞれ、最大277名の定員での入居率（76.5%→74.7%）と表している。

②二人部屋の運用再開

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、新友館の二人部屋を一人で使用する事としていたが、令和8年度より二人部屋としての運用を再開した。対策前は1年生が対象となっており高専や寮生活に慣れていない1年生同士の二人部屋は寮生間の問題発生があったため、2年生を対象とした。一部個室の2年生がいるため、夏休み前の閉寮時に部屋替えを行う。

③寮生保護者向けのメール配信システム（マチコミ）の継続運用

寮生保護者向けの連絡手段とした構築したメール配信システム（マチコミ）を継続運用し、寮生保護者会総会や同臨時総会の開催、保護者への各種照会、意向確認等において活用した。

④寮内設備の充実化

令和7年度における対応は以下のとおりである。

- ・西友館、新友館、紫峰館、北友館の洗濯機全37台を交換した。
- ・洗濯機交換時に洗濯機パンの清掃を当該寮棟の全箇所にて行った。
- ・紫峰館4F居室の床板を修繕した。
- ・紫峰館1Fの浴場前とシャワー室前の両脱衣所の床板を修繕した。
- ・北友館の玄関ドアの修繕をした。
- ・男子浴場21個、女子浴場8個の風呂椅子を新調した。
- ・新友館の故障していた掃除機2台の新調をした。

- ・寮食堂のグリストラップの配管詰まりを解消した。
- ・北友館 1 F の故障した浴室系統量水器を新調した。
- ・西友館の 5 F 天井の浸水と浸水による天井と電気系統の修繕を行った。
- ・西友館 5 F の故障した電気温水器を新調した。
- ・令和 8 年度版学寮生活の手引きを発行した。
- ・男子浴場の故障したシャワーヘッドとホースの交換を行った。
- ・故障した乾燥機 2 台（新友館、北友館 1 台ずつ）を交換した。

⑤寮食堂について

老朽化している厨房機器類を更新した。寮食堂厨房内水栓交換工事を行った。寮生数の増加に伴い食堂のスペースが限られることから、昼食時間を前半と後半に分ける入替制を継続した。

⑥宿日直業務について

宿日直業務の一部外部委託を継続し、教員の負担軽減を図った。
教員が当直の際は全体指導を行った。

⑦避難訓練等について

春に火災（早朝）、秋に地震（夜間）を想定した避難訓練を実施した。また、台風や警報・注意報に備えて梅雨明けに暴風雨時点呼訓練を行った。

⑧寮務委員会

第 1 回 令和 7 年 5 月 30 日（月）

1. 寮務委員の業務分担について
2. 運営方針について
3. いじめ調査

第 2 回 令和 7 年 6 月 25 日（水）

1. 特別残寮について
2. 寮生の問題行動に対するペナルティについて
3. 留学生のキッチン利用について

第 3 回 令和 7 年 7 月 23 日（水）

1. 寮生の問題行動に対する指導・処分について
2. 令和 6 年度寮費決算案
3. 令和 7 年度寮費予算案

4. 学寮共有経費に関する申合せの修正

第4回 令和8年2月20日(水)

1. 新入寮生希望者面談について
2. 令和8年度学寮運営方針について

⑨学寮行事

期日	内容
令和7年4月3日(木)	開寮、新入寮生オリエンテーション
令和7年4月24日(木)	早朝避難訓練(火災)
令和7年4月28日(月)	寮生総会(寮生会予算・決算)
令和7年6月22日(土)	新入寮生歓迎会
令和7年7月13日(日)	学校説明・見学会(学寮説明会)
令和7年7月18日(金)	非常時の在寮確認訓練(暴風雨時点呼)
令和7年8月2日(土)	学校説明・見学会(学寮説明会)
令和7年8月8日(金)	一部部屋替え、閉寮
令和7年9月20日(土)	開寮、保護者役員会
令和7年10月18日(土)	寮祭(BBQ、ビンゴ大会)
令和7年10月29日(水)	夜間避難訓練(地震)
令和7年11月26日(水)	寮生保護者会総会(マチコミメールを使用)
令和7年12月17日(水)	学寮建物等の美化作業
令和7年12月26日(金)	閉寮
令和8年1月5日(月)	開寮
令和8年2月3日(火)	卒寮生追い出し会
令和8年2月11日(水)	退寮・部屋替え、閉寮日
令和8年2月26日(木)	新1年生の入寮面接

⑩規則等の改正等

- ・「学寮共有経費に関する申合せ」の一部改正
- ・第2門限(21時)を新たに設定

⑪寮生の体調管理

・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に関する方針を継続し、寮生が体調不良になった場合は、発熱の目安を37.5度以上とし、風邪に似た症状がある場合には速やかに保護者に連絡をとって帰宅するよう指導した。

⑫寮食堂（と学校食堂）での台湾米への切り替え

- ・物価、人件費の高騰により、従来の価格での提供が困難となり、コンパスグループ・ジャパン株式会社より寮食堂の食費について値上げの打診があった。令和8年度の寮生総会によって承認を経て、後期から適用する予定。

⑬短期留学生受入について

- ・フランスのルーアンからのインターンシップで8名、朝鮮理工大学より10名の短期受入を行った。

⑭留学生自炊者専用キッチンのクリーニング

- ・留学生が宗教などの理由により自炊で使用している寮の専用キッチンについて、グローバル教育センターとの連携によりクリーニングを行った。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 新型コロナウイルス感染症が5月に感染症法上の5類に変更されたことに伴い、寮祭におけるバーベキューの復活等、寮生同士の交流を促す施策を本年も実施した。本年においては無事、感染拡大は発生せずに終えることができた。引き続き、感染症の状況を考慮しながらではあるが、寮生・教職員同士のコミュニケーションの促進をはかりたい。
- ② 他者との共同生活に難がある寮生の対応や、寮のルールを守らず違反を繰り返し、秩序を乱す寮生に対する指導など、個別対応が必要な事案は多い。保護者や担任、学生健康センターなど、関係者との連携がより重要となっている状況は依然続いている。
- ③ 違反を繰り返す寮生の対応、また昨今の情報公開の重要性が増した時勢に鑑み、寮の内規である違反ポイント制度を公開した。今後は、違反ポイント制の運用と寮生・保護者への正しい周知が課題である。
- ④ 本年度は主事補・事務職員の人員数削減と異動、学生居室191室のエアコンの更新、寮食堂業者入札、アレルギー・宗教食対応の変更など寮の運営基盤に係る更新事項が多くあった。例年とは異なる条件や環境での運営となったが、来年度は本年の経験を活かし運営の改善を図りたい。
- ⑤ 本校在籍留学生、短期留学生ともに人数・案件が増加している。寮務主事、主事補をはじめ、学生寮指導員や事務職員の負担も同様に増加している。また、部屋数の確保と同時に使用できるキッチンも、宗教などの理由から確保も難しく、今後の受入れにも寮食堂での食事が可能な学生かどうか等の事前調整が必須と思われる。
- ⑥ 男子に導入している指導寮生を班長とする縦割り班制を女子にも導入。フロアやユニットを縦割り班とした部屋割りを行い、指導寮生が班長となって低学年生へきめ細かいサポートを行った。指導寮生だけでなく教職員の負担軽減につながった。

(3) 今後の展開

新型コロナウイルス感染症の指定が変更されたとはいえ、共同生活の運営上、予断は許されない状況が続いている。本年度まで男子寮の二人部屋を寮生ひとりで利用してきたが、次年度から二人部屋での利用を行う。このような状況にあっても、寮生の寮での生活・経験を充実させるため、コロナ禍前の寮生イベントの復活、ひいては新しいかたちでのアップデートが必要である。縦割り班制を有効活用しつつ教職員として寮生を指導・サポートし、積極的な寮生同士の交流を促していきたい。

また、西友館は令和10年3月に新築後30年となり、建物改修に向けた準備期間が令和8年3月時点で残り3年となるが、定員100名の全個室の建物のため、建物改修に向けたハードルはとて高い。西友館の建物改修のために単純に男子寮生の定員を100名減で運用してしまうと、本校の入試倍率に大きな影響を与えることが予想されるため、マスタープラン策定に向けて全学的な協力・検討が必要である。

6. 広報活動（広報戦略室及び広報委員会）

（1）取組実績

広報活動は、広報戦略室及び広報委員会において立案のうえ、学生、保護者、教職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し、教育、学術、地域貢献、国際貢献及び学生活動における成果の発信等を行い、本校を正しく認識してもらうことを目的として実施しており、今年度は、次の活動を行った。

①ホームページでの情報発信及び更新

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えている。

本校の取組み及び学生の活躍等を掲載ニュースとし積極的に取り上げ、本校の魅力発信につなげた。

②Instagram の運用開始

本校の様々な活動や魅力等の発信強化のため、Instagram の運用を開始した。

これにより、本校の公式 SNS は、以下のとおりとなった。

- ・ You Tube
- ・ X
- ・ Instagram

③「学校要覧」の刊行

「令和7年度版 学校要覧」について、前年度版のデータ更新を行い、1,000部刊行した。

主に求人企業、地域連携機関、入試広報及び来客者等に配布し案内を行った。

④「キャンパスガイド」の刊行

「キャンパスガイド 2026」について、前年度版のデータ更新を行い、7,500部刊行した。

学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

また、「国公私立高専合同説明会（KOSEN FES）2025」を始めとする各種イベントにおいても配付を行った。

⑤広報活動実績

No.	出典イベント名	会場・場所	実施日
1	J-PARC・原子力科学研究所 施設公開 2025	J-PARC・原子力科学研究所 (東海村)	令和7年8月23日(土)
2	道の駅日立おさかなセンター 旬漁祭	道の駅日立おさかなセンタ ー(日立市)	令和7年10月26日(日)

3	青少年のための科学の祭典 ひたちなか大会	ひたちなか市総合運動公園 総合体育館 (ひたちなか市)	令和7年11月1日(土)、 2日(日)
4	さんふらわあ号宿泊体験学習	大洗港(大洗町)	令和7年11月16日(日)
5	那珂フュージョン科学技術研 究所施設見学会	那珂フュージョン科学技術 研究所(那珂市)	令和7年11月29日(土)
6	水戸生涯学習センター プロジェクトマッピング	水戸生涯学習センター(水 戸市)	令和7年12月7日(日)
7	スーパーサイエンスキャラバ ン@まちかど(小山高専主催)	イオンモール小山(栃木県 小山市)	令和8年3月20日(金・ 祝)
8	茨城高専アソビサイエンス	イーアスつくば(つくば市)	令和8年3月28日(土)

⑥広報委員会の開催

	開催日	議題
第1回	令和7年4月25日(金)	報告事項 1. 広報戦略室について 連絡事項 1. 「茨城高専キャンパスガイド2026」の編集につ いて 2. 令和7年度学校要覧の編集について 3. 茨城高専ホームページの更新状況確認につ いて その他 1. 茨城高専ホームページでの SNS の運用につ いて
第2回	令和7年6月3日(火) (メール会議)	審議事項 1. 茨城工業高等専門学校 SNS 公式アカウント運 用ポリシーの一部改正について
第3回	令和7年12月18日(木)	連絡事項 1. 「茨城高専キャンパスガイド」の編集について 2. 令和8年度学校要覧の編集について 3. ホームページ更新作業について 4. プレスリリースについて

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校教職員や学生の活動について、広報戦略室の方針の下で、引き続きホームページ及び SNS 発信を含め積極的に情報発信を行っていく。
- ② 「学校要覧」及び「キャンパスガイド」については、学内の広報関係スケジュールを考慮し、適切な時期に刊行できるよう進めていく。
- ③ Instagram の運用を開始し、SNS の充実を図ったが、コンテンツの更新等が課題であるため、発信対象、内容等の検討を行っていく必要がある。

(3) 今後の展開

年々、予算が削減される中で、経済的かつ効果的な広報の方法の検討が必要となってくる。広報戦略室立案の下で、各コンテンツの充実を図りながら積極的な情報発信を行っていく。

7. 学生健康支援（学生健康センター）

（1）取組実績

心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活を支援することを目的として、次の活動を実施した。

- ① 学生のメンタルヘルスに関する取り組みを行った。
 - ア.メンタルヘルス講演会：3年生（対面）
 - イ.「相談室だより」の発行（HP掲載）
 - ウ.茨友会館掲示板の活用（学生相談室開室日、その他相談窓口、保健ニュース等の掲示）
- ② 教職員を対象としたセミナーの開催及び研修会等へ参加し支援体制の充実を図った。
 - ア.「発達障害支援セミナー」の開催（対面）
 - イ.「自殺防止セミナー」の開催（対面）
 - ウ.「エビペン講習会」の開催（動画配信）
 - エ. 第22回全国国立高専学生支援担当教職員研修会：参加（寮務主事、センター長、看護師）
 - オ. HeartCodeBLS（一次救命処置）：参加（看護師）
 - カ. 全国養護教諭連絡協議会第27回研修会：参加（看護師）
 - キ. 第二種衛生管理者免許試験準備講習会：参加（看護師）
- ③ 献血を実施した。
- ④ 学校環境衛生検査（学校プール水質検査、照度検査、空気検査）を実施した。
- ⑤ 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）WEBによるアンケート調査を実施した。
- ⑥ 「学生定期健康診断」を実施した。
- ⑦ 「日本スポーツ振興センター」の災害給付金請求に係る補助業務を実施した。
- ⑧ 高専地区体育大会及び学内行事等の救護業務を実施した。
- ⑨ 怪我や急病者への対応（応急処置、医療機関受診の付き添い、健康相談、医療機関紹介等）を行った。
- ⑩ 学生相談室のインテーカー業務を実施した。
- ⑪ 「バリアフリー支援室」における業務補助を行った。
- ⑫ 学生健康センター内打ち合わせを実施した。
- ⑬ 新型コロナウイルス及びインフルエンザ等感染症対策を継続的に実施した。
 - ア. サーモ体温測定機の利用
 - イ. 非接触型自動消毒機の利用
 - ウ. 個室の休養室の利用（必要時監視カメラ作動）
- ⑭ 学生健康センターホームページの更新を行った。
- ⑮ 新入生「健康管理調査書」の見直しと有効活用を図る

- ⑫ 救急体制の充実と整備（昇降機、AED、車椅子）を行った。

（２）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 対面式セミナーにて、熱心に耳を傾けている姿が見られた。講演後のアンケートでは反応も良く、質問にあった著書の紹介や相談室の利用法を含めた **Gmail** を送信し理解が深められたことを確認した。今後も学校生活をより健全に送れるよう情報発信を充実させ、学生相談室をより身近に感じてもらえるよう努める。
- ② 主に対面での実施となり質疑応答も有り、学生対応に関する理解の共有に繋がった。質の高い業務遂行のため自己研鑽に努め、学びを深めるとともに実践力に繋がった。
- ③ リーフレットの教室掲示、ポスターの学内掲示により献血協力の呼びかけを行い、**Gmail** を活用した事前のアナウンスを充分に行い献血の重要性の理解に繋がり、昨年度以上のより多くの協力を得る事が出来た。
- ④ 学校薬剤師による検査を行い検査値は全て基準値内であり良好な環境である事を確認した。
- ⑤ WEB形式によるアンケート調査の実施により、調査結果の迅速な集計作業が可能となり、カウンセラーによる「高リスク判定」の学生への早期対応（面談）に繋げる事ができた。
- ⑥ １年生は資料配布、２年生以上は **Gmail** で実施要領を周知し、教室掲示を行う等、事前周知の工夫により受診率の向上に繋がった。
- ⑦ 学校管理下内の怪我等に対する給付金請求がスムーズに行えるよう **Gmail** や電話での個別対応を行った。
- ⑧ **WBGT** を活用し熱中症対策及び感染症対策に留意しながら安全な救護活動を実施した。
- ⑨ 不意に起こる怪我や急病に迅速かつ最善の対応ができるよう「傷病対応マニュアル」を適宜見直し関係者との情報共有を行った。
- ⑩ 来室初期に体調不良の訴えにより休養する学生に対しスクリーナーを行い、メンタルの問題を抱える学生に対しては、相談室と連携しゲートキーパーとしての役割を果たせるよう努めた。また、センター長を中心にカウンセラー、関係教員、センター内スタッフにより適時適切な情報共有を行いチームとしての対応に繋がった。
- ⑪ 「バリアフリー支援室規則」により専任カウンセラーを中心に連携に努め業務補助を行った。
- ⑫ 合理的でより良い支援を行うために、必要時に情報共有を行い初動が遅れぬよう随時速やかに課題の解決に取り組んだ。
- ⑬ 引き続き感染症予防対策に努めた。
- ⑭ 学生健康センターを気軽に利用出来るよう必要な情報を簡潔明瞭に掲載する等随時HPの更新を行った。
- ⑮ 「健康管理調査書」の内容精査のため見直しを行った。健康管理調査書に記載のあった学生の情報共有としてファイル作成を速やかに行い、クラス編成や入学前面談の実施や入学後の対応に繋がった。

- ⑯ 車椅子、AED 設置における救急体制の充実の継続。玄関の扉の自動ドアへの改修が望ましい。

(3) 今後の展開

学生が安心して充実した学生生活を送ることができるよう、引き続き学習環境の整備と支援体制の強化を図る。感染症対策については、最新のガイドラインに基づいた予防策を講じ、より良い環境づくりに努める。また、「学生定期健康診断」の受診率向上に向けた周知や働きかけを強化し、学生ひとりひとりの健康状態の把握と早対応に努めるとともに、自己の健康管理の重要性を理解し役立ててもらおう。

さらに、学校生活において多様な背景や特性を持つ学生、留学生、県内外の遠方からの入学者が増加していることを踏まえ、高専生活に順応出来るよう、個々の状況に応じたきめ細やかな支援が必要と考えられる。特に、メンタル不調を抱える学生に早期に気づき、適切な対応を行える体制づくりを強化する。関係教職員、外部機関との連携を取り、チームとして速やかな情報共有を行い、支援に繋がるよう努める。

8. 図書館運営（学術総合情報センター）

（1）取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約9万冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年度からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した図書館開館

■ 日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」や他高専図書館、大学図書館、近隣公共図書館の開館状況を参考に本校図書館における対策を実施して図書館を開館した。

- 令和6年4月1日から一般利用者開放の再開
- 貸出資料返却時のブックポスト（玄関前に有り）利用の推進
- 入館の際は、入口でのアルコール消毒の徹底
- 貸出希望図書をEメールで予約の上、図書館窓口で貸出受取りを実施

② 行事实施

1) 図書館ガイダンスの実施

＊新入生対象（クラス単位で説明会を実施）

日 時：令和7年4月15日（火）、16日（水）、18日（金）、21日（月）

場 所：視聴覚教室、クラス教室、図書館閲覧室

＊新入留学生対象

留学生向け図書館利用ガイドを作成して個別に説明した。

2) ブックハンティングの実施（学生図書委員会）

期 間：令和7年5月22日（木）～令和7年6月19日（木）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。

合計125冊の図書を購入した。（経費：後援会費）

3) 図書館カフェの開催

（図書館では、知的情報の拠点を目指すことを活動計画の一つとして挙げており、例年秋季に本校教員の研究に関連したテーマで講演会を開催）

⇒令和7年度は開催していない。

4) 第9回ビブリオバトルの開催

(例年秋季に文章やイラストで推薦本を紹介する本校独自の書評合戦を開催)

募集期間：令和7年9月22日(月)～10月24日(金)

応募総数：24件

投票期間：令和7年11月6日(木)～11月27日(木)

受賞者決定：令和7年12月2日(火)

表彰式：令和7年12月10日(水)12時40分～

(場所：視聴覚教室)

受賞	所属	氏名	書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	5M2	根本 舞	破局	遠野 遥	読み終わったあと
特別優秀賞	2年5組	濱本 夏芽	物理法則はいかにして発見されたか	R.P ファインマン	物理の本質を感じる
	5E	柳田 海翔	六人の嘘つきな大学生	浅倉 秋成	人の奥深さ
優秀賞	1年2組	小川 善大	らき・すた	美水かがみ	疲れた時に読む作品
	4M1	栗原 大輝	夜のピクニック	恩田 陸	読後の余韻とあたたかさ
	5M2	柴 昌史	カラフル	森 絵都	人生の多彩さを実感できるところ

③企画展示の実施

1) 「ブックハンティング図書」の展示(経費：後援会費)

展示物：学生からのリクエスト図書

2) 「教員推薦図書」の展示(経費：後援会費)

展示物：先生方より推薦された専門図書・参考書等

3) 各賞受賞作品の展示

展示物：2025・2026年本屋大賞受賞作品、第173回・174回 芥川賞・直木賞作品

4) 「第9回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示

展示物：第9回ビブリオバトル受賞作品

展示期間：令和7年12月5日(金)～

④図書館環境整備

1) 入口モニターの活用

図書館イベント案内や図書館利用の方法、新着図書・新着雑誌のお知らせなどこまめに更新し、ホームページと併せて利用者の図書館活用に役立てた。

2) 図書館ホームページの更新

本校ホームページ内にある図書館サイトから情報発信を行った。

茨城高専 HP HOME>施設・センター>図書館

<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/facility/library/index.html>

⑤各種図書コーナーの配置

1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。今年度は、学生のリクエスト図書や専門書の購入を積極的に行った。

2) 英語試験コーナー

技術英検のテキストや英検、TOEFL、IELTS、GTEC の参考書を展示。英語の論文作成やプレゼンテーションに役立つ図書を展示。

3) 新書コーナー

岩波ジュニア、岩波、ブルーバックス他、文庫シリーズ多数有り。

4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを整備し学年別に配架。

5) 大学編入学対策コーナー

大学編入学に特化したより深く学習するための図書を充実。

6) 進路資格コーナー

資格取得に役立つテキストや参考書、試験問題過去問集等を充実させた。

7) 就活コーナー（4年度新設）

就活に役立つ産業界研究参考図書や適性検査、面接対策図書等を充実させた。

8) F E 受験コーナー

F E 試験（Fundamentals of Engineering Exam）対策の参考書・問題集を配架

9) 本校教員著書コーナー

10) メンタルヘルスコーナー

11) 文芸部「地雷」コーナー

文芸部誌『地雷』を配架し、活動を応援。

12) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。タイ留学生を対象にした英語、タイ語の書籍を整備。

13) グローバルコーナー

グローバル関連の図書、国連関連図書に加え、国際連合広報センター発行の広報誌『Dateline UN』国際協力機構広報誌『mundi』を置き、タイムリーな国際情勢を紹介。

14) 歴史文化ライブラリーコーナー

吉川弘文館の歴史文化ライブラリーシリーズの展示。

15) TOEIC コーナー

公式 TOEIC L&R 問題集シリーズ他を複本で揃え、学生の英語資格取得に役立つ展示。

⑥令和7年度整備図書資料

1)ブックハンティング図書 125 冊（後援会より寄贈）

学生図書委員が中心となりクラスごとに選書リストを提出、夏季休業前に購入した。自分たちで選んだ本ということで利用率が高く多数貸出された。

2)就活図書 7 冊（後援会より寄贈）

企業研究、試験対策、面接対策等、就職活動に役立つ図書を購入した。

3)教員推薦図書 42 冊（後援会より寄贈）

教員から推薦された、学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書などを購入した。

4)シラバス図書 18 冊（後援会より 14 冊寄贈）

今年度のシラバスに掲載の図書を購入し、学年ごとに配架した。

5)専門書 195 冊（後援会より寄贈、一般寄贈）

新出題形式対応 TOEIC、技術英検等、資格取得図書を多数購入した。

専門書は新着展示として入口直ぐのカウンター前書架に配架し多数貸出された。

6)各賞受賞作品 33 冊（後援会より寄贈）

芥川賞・直木賞、本屋大賞受賞作品を購入、展示コーナーを作成した。

7)教員著書 1 冊

茨城高専の教員の著書コーナーへ展示した。

8)新書コーナー 43 冊（後援会より寄贈）

9)地球の歩き方 20 冊（退職教員寄付金 8 冊、一般寄贈 14 冊）

地球の歩き方 2025 年度発行の外国版を購入した。

⑦蔵書構成等（令和7年度）

1) 図書

分類	和書	洋書	計
総記	3,404	265	3,669
哲学・宗教	4,103	921	5,024
歴史・地理	6,537	239	6,776
社会科学	6,088	354	6,442
自然科学	15,374	3,635	19,009
技術工学	15,389	2,628	18,017
産業	782	17	799
芸術	4,495	108	4,603
言語	6,422	3,238	9,660
文学	18,830	1,458	20,288
計	81,424	12,863	94,287

2) 電子書籍

和書	洋書	計
46	133	179

3) 雑誌

和雑誌	洋雑誌	計
111	7	118

4) 定期購読

- ・国内雑誌 41 誌 外国雑誌：2 誌（うち後援会寄贈雑誌 21 誌）
- ・新聞：5 誌（茨城新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊工業新聞）

⑧研究支援活動（令和7年度）

1) I L L利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付 14 件 複写受付：6 件
- ・外部図書館への貸借依頼：5 件 複写依頼：22 件
- ・I L Lシステム以外の公立図書館との相互貸借：9 件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
A I P Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
A P S Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
ScienceOnline (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamⅢ（科学技術振興機構）	高専コンソーシアム
MathSciNet（AMS：American Mathematical Society）	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん（朝日新聞データベース）	本校個別契約

4) 国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの利用開始

令和 7 年 5 月から、国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス（以下、「資料送信サービス」という。）が本校図書館備え付けのデスクトップ P C で利用可能になった。この資料送信サービスは、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料（インターネット上に公開している資料とあわせて 200 万点以上）を図書館内で閲覧できる。

（参考）国立国会図書館 H P

https://www.ndl.go.jp/jp/library/service_digi/index.html

資料送信サービスの利用を希望する場合、図書館職員へ申し出る。図書館備え付けのデスクトップ P C のアクセスキーを受領して利用開始する。

⑨ 図書館開館状況、入館者数、貸出冊数（令和 7 年度）

* 正規の時間内開館： 平日の午前 8 時 30 分～午後 7 時

* 時間外開館 土・日曜開館： 午前 10 時～午後 5 時

1) 開館状況（月別開館日数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	22	20	21	24	16	19	22	18	20	18	17	21	238
時間外（夜間）	17	20	20	24	6	6	26	18	20	16	6	0	179
時間外（土曜日）	4	5	3	4	1	1	4	6	3	4	0	0	35
時間外（祝・日曜日）	0	1	1	2	0	0	0	2	0	2	0	0	8
合計（正規＋土・日）	26	26	25	30	17	20	26	26	23	24	17	21	281

2) 入館者数（入館者カウント装置から算出）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	4,647	5,565	4,488	6,672	2,063	2,168	
時間外（夜間）	667	1,306	682	1,252	92	174	
時間外（土曜日）	182	533	110	529	41	273	
時間外（祝・日曜日）	0	170	198	386	0	0	
合 計	5,496	7,574	5,478	8,839	2,196	2,615	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	4,660	3,813	3,248	5,060	2,131	1,411	45,926
時間外（夜間）	940	854	604	1,165	112	0	7,848
時間外（土曜日）	274	649	186	597	0	0	3,374
時間外（祝・日曜日）	0	198	0	360	0	0	1,312
合 計	5,874	5,514	4,038	7,182	2,243	1,411	58,460

*入館者カウント装置から算出

3) 一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	8	8	9	13	8	210	15	13	21	15	18	13	351

4) 利用者区別貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	111	39	52	47	38	15	46	19	40	39	33	2	481
2年生	38	21	62	29	48	17	31	36	50	17	28	14	391
3年生	99	37	88	56	125	51	104	54	141	70	117	23	965
4年生	147	91	173	77	91	90	159	121	177	146	150	53	1475
5年生	196	144	144	120	88	64	73	43	69	46	38	2	1027
専攻科	42	27	24	15	11	14	13	17	25	16	18	8	230
教員	17	10	17	22	24	19	15	15	21	13	6	9	188
職員	292	306	441	412	174	170	232	219	192	276	55	27	2796
非常勤講師	10	13	6	2	6	5	3	1	1	2	6	4	59
一般	33	36	21	27	16	12	38	29	32	19	27	20	310
合計	985	724	1028	807	621	457	714	554	748	644	478	162	7922

*I-Liswave-J 利用者区分月別冊数・人数統計から算出

⑪会議等の開催

1) 高等専門学校及び技術科学大学図書館情報交流集会

テーマ：高専図書館の利用者サービスと図書館運営の向上に向けて

開催日時：令和7年8月28日（木）～8月29日（金）

会場：一橋講堂 中会議場3・4（東京都千代田区一ツ橋 学術総合センター2階）
オンライン使用

2) 第25回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

開催当番校：サレジオ工業高等専門学校

日時：令和7年11月21日（金）11:00～12:00

場所：10号館10-105ゼミ室（情報交換会 Zoom オンライン、研修会 Zoom オンライン）

出席者：安細 勉（学術総合情報センター長）、加藤 文彬（副学術総合情報センター長）
由井 孝雄（学生課図書係長）、関 幸子（図書館司書）

会議内容：各高専からの取組近況報告等の情報交換

研修会（14:00～）：「読むことが苦手な学生たちにも読書する楽しさを」

講師：有限会社読書工房 代表 有松 一郎 氏）

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 令和3年度から新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、閲覧室の座席を通常配置に戻して教職員及び学生を対象として開館した。一般利用者への開放は令和6年度から再開している。
- ② 時間外開館（平日の通常開館日のみ19時まで）、土曜日開館、定期試験期間中の日曜開館を実施した。また、定期試験期間の1週間前の日曜日も開館した。
- ③ 研究支援活動や図書の予約貸出しサービス等を実施するなど、図書館の利用環境を保持できるよう取り組んだ。
- ④ ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ⑤ 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくことを受けて、電子ジャーナルの利用見直しを行う。
- ⑥ 年々削減される図書館運営経費から必要経費を捻出し、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図る。
- ⑦ 本校ホームページ内の図書館サイトからの情報発信や図書館利用サービスを提供するため、サイト内の情報を整理して充実させる。
- ⑧ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。

(3) 今後の展開

- ① 令和5年3月28日、第五次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、多様な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進について検討していく。
- ② 新型コロナウイルス感染症の5類移行後においても、図書館における感染防止対策を継続して実施し、図書館利用者の感染予防に努める。
- ③ 令和4年度に高専機構本部の調達（長岡技術科学大学との共同調達）により、第4期統合図書館システムへ更新されたが、システムの不具合が発生しているため、登録図書データのチェックなど注意して行う。

9. 情報化推進（学術総合情報センター・情報セキュリティ管理委員会）

（１）取組実績

情報センター等では、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備、PC 等の利用におけるサポート及び情報セキュリティ強化等について、次の活動を行った。

①情報及び情報機器の取扱いに関する注意喚起について

全教職員に対し、以下について注意喚起を実施した。

1. 情報の格付及び取扱制限の決定・明示
2. 情報の持ち出しルール
3. 情報機器等の持ち出しルール
4. 私物端末の校内使用ルール
5. 私用端末による業務利用時の注意
6. 外部記録媒体（USB 等）の使用制限
7. 長期休暇前後の対応（特にゴールデンウィーク、夏季、年末年始）
8. クラウドサービスの利用に関する留意事項

②ソフトウェアライセンス管理

ソフトウェアのライセンス管理を徹底する事を目的として、全教職員に保有しているソフトウェアの調査を実施し、ソフトウェアライセンス管理台帳を作成した。

③情報セキュリティ教育・訓練

情報セキュリティに対する意識の向上を目的として、以下を実施した。

- ・全学生を対象に、宣誓書の提出を依頼した。
- ・全教職員を対象に、誓約書の提出を依頼するとともに、情報セキュリティに関するセルフチェックを実施した。
- ・全教職員を対象に、情報セキュリティ e-Learning を実施した。
- ・全教職員を対象に、情報セキュリティインシデント対応訓練を実施した。

④学術総合情報センター運営委員会

第1回（Teams 会議）

開催日： 令和7年9月10日（水）

議 題：

報告事項

1. 情報処理センター改修に伴う各種サーバ及び電話交換機の移設について

（実施結果報告）

2. 次期「高専統一ネットワークシステム」(2028.4 運用開始予定) について

- ・ネットワーク論理設計_標準モデル
- ・ACL_標準モデル
- ・次期「高専統一ネットワークシステム」作業希望日

連絡事項

1. プロキシサーバの廃止について
2. ソフトウェアライセンス調査について
3. Microsoft 社製ソフトウェアのサポート終了について
4. Microsoft365 メールシステムへの移行(令和5年度実施)に伴う対応について

⑤ 関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会

関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会に参加し、地区内高専の状況について情報交換を実施した。

(2) 自己評価(改善含む) 及び課題

- ① 情報及び情報機器の取扱いに関する注意喚起については、教職員が日々の業務において留意すべき点を定期的に周知することで情報セキュリティに関する意識の向上を図ることを目的として開始した。令和8年度以降も内容の更新を行いながら継続的に実施していくこととしたい。
- ② ソフトウェアライセンス管理については、台帳を作成し、ライセンス管理の徹底を図ることができた。
- ③ 情報セキュリティ教育・訓練については、実施により、情報セキュリティへの意識付け及び注意喚起を図ることが出来た。令和8年度以降は、本校で見受けられる特徴的な事項等を取り上げるようにし、効果的な啓発を実施していきたい。

(3) 今後の展開

情報セキュリティへの対策は年々厳しくなっていることから、現在実施している各施策の充実・強化を図りながら、学内のセキュリティ水準や教職員の意識の向上につなげていく。

10. 国際化推進（グローバル教育センター）

（１）取組実績

国際化推進については、グローバル教育センター会議で立案し、海外学生派遣・受入、筑波大学連携事業、留学生受入及びグローバルエンジニア育成事業などの取り組みについて、着実に実行に移した。

①筑波大学連携事業 Global PBL

令和7年8月18日（月）から8月22日（金）の5日間、筑波大学大学院の外国人留学生をティーチングアシスタントとし、夏季集中講義：Global PBLを本校で実施した。今年度のテーマは“Global Problem Based Learning (PBL) Summer Intensive Course 2025 Depopulated Areas and Regional Revitalization”で、30名の学生が受講した。

②留学生（正課生）の受入

本科3年次に男子6名（モザンビーク、タイ、マレーシア、ラオス、スリランカ）の留学生を新たに受け入れた。

③タイ留学生受入

令和7年度は、専攻科の電気電子工学コースにタイ留学生3期生が1名入学した。令和7年度におけるタイ留学生在籍者は10名（本科3年：2名、本科4年：3名、本科5年：2名、専攻科1年：1名、専攻科2年：2名）であった。

令和8年度専攻科入学者選抜試験のタイ政府奨学金留学生特別推薦選抜に本科5年生2名が出願し、合格した。令和8年度に専攻科へ本科5年の2名が進学する。

④本校留学生の活動支援

留学生の健康管理のため成人病検診（血液検査）、インフルエンザ予防接種、麻疹抗体検査を実施した。麻疹抗体検査の結果、抗体値の低い留学生に対しては予防接種を促した。

また、留学生卒業旅行を実施した。令和8年3月6日（金）、参加人数は25名であり、行先は栃木県日光市（日光東照宮、EDO WONDERLAND 日光江戸村）であった。勝田ライオンズクラブ主催の交流および食事会など、地域との交流を行った。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

鈴木秋弘校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務めた。加藤グローバル教育センター長および同センター関係教員が理事会へ出席し、地域と本校との国際分野での連携を深めた。令和7年度も前年度同様、「ひたちなか市国際交流文化祭」や多文化交流グループ主催の「グローバルサマースクール」等のイベントへ本校留学生が参加した他、朝鮮理工

大学の学生を受け入れた際には、フロイデひたちなかメディカルプラザ、ひたちなか市国際交流協会との交流や、日本文化体験活動の実施など多方面にわたった連携を展開することができた。

⑥トビタテ留学 JAPAN

第 10 期派遣留学生として 4 名が採用され、マレーシア、ドイツ、イギリス、オーストラリアに留学した。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和 7 年度も「持続可能で多様なグローバル社会づくりに貢献できるエンジニア育成」事業が、高専機構本部のグローバルエンジニア育成事業として採択された。この事業は、持続可能なグローバル社会をけん引する人材として、英語でのコミュニケーションスキルに加えて、認知能力、社会性、課題発見・解決能力を備えた学生の育成を目指すものである。

令和 7 年度事業の取組概要は以下のとおり。

番号	実施項目	概要
1	地域と連携したオンキャンパス活動	新入留学生歓迎会実施（4 月）： 留学生が主体となって実施するイスラム教の断食明けの祝祭(Iftar)と合わせて、新入生歓迎交流会を実施した。本校の日本人学生に加え、地域の方も招くなど（総勢約 80 名）相互の文化交流を行うことができた。 地域自治体との共同プログラムの実施（8 月、9 月、11 月）： 1）ひたちなか市国際交流協会主催「グローバルサマースクール」で地元小学生とマレーシアのワヤン・クリットを製作・実演するプログラム 2）国際交流文化祭における発表および交流活動 3）ひたちなか市教育委員会委託事業「グローバルカフェ」で地元中学生と英会話で交流するプログラム
2	本校のグローバルカリキュラムにおける各種授業と関連の取り組み	グローバル科目（グローバル PBL）： 筑波大学大学院の留学生を TA として招き、地域活性化をテーマに PBL アクティビティ型の授業を実施した（実施時期：8 月、5 日間）。グローバ

		ル副専攻学生 30 名と T A 学生によるグループ学習や施設見学、英語でのプレゼンテーション等を行い、テーマに関する理解および見聞を深めた。 グローバル科目（グローバルサイエンス）： 1）本校で受け入れたフランスからの短期留学生（4 ヶ月滞在）やタイ高専からの短期留学生（1 ヶ月滞在）を授業に参加させ、授業における課題活動において、日本人学生とのグループ活動を行った。 2）茨城県の国際交流協会からフランス人の職員を招き、日本での生活における文化やライフスタイルの違いや、そこからの学び、海外からの方との接し方について学んだ（英語）。 3）タイの T J S S F 参加に向けてテーマ内容を課題として、内容の準備からプレゼンの練習など活動を行った。 4）市内の勝田中等教育学校のグローバルコースの生徒さんを招き、英語でのポスター発表会を行った。
3	各タイプ別海外派遣プログラム	英語研修（＋ボランティア活動）： 本校学生 22 名をフィリピンのセブ島に派遣し、2 週間の英語研修を行った。あわせて、現地のゴミ山周辺に生活する地元住民を訪ね交流した。生活の様子を知ることにより、社会・環境問題や求められていることなどについて学んだ。 海外インターンシップ（韓国、フランス）： 本校と交流協定を結んでいる大学に学生を派遣した。 韓国：（朝鮮理工大、派遣学生 6 名、9 月派遣、18 日間）。 フランス：（ルーアン応用科学大学、派遣学生 2 名、3 月派遣、18 日間） いずれも現地での大学の授業、専門科目学習、語学・文化学習、関連施設視察、学生交流を行った。

		フィールドスタディ（シンガポール、マレーシア）： 本校と交流協定を結んでいる大学／ポリテクニクに学生を派遣した。 シンガポール：（シンガポールポリテクニク、派遣学生6名、3月派遣、18日間）。 マレーシア：（マレーシア工科大、INTEC 派遣学生11名、3月派遣、12日間）。 いずれも現地機関での授業、フィールド活動、語学・文化学習、関連施設視察、学生交流を行った。 海外プロジェクト参加： トビタテ（マレーシア：8月派遣、4週間、ドイツ：2月派遣、3週間、オーストラリア：2月派遣、4週間、イギリス：2月派遣、3週間。各1名）。
4	本校に海外から学生を招いて実施した各種プログラム	ルーアン応用科学大学からの学生受入： （8名、期間：6月から3ヶ月、本校での研究テーマに基づいたインターンシップ、および学生交流、文化体験を実施） 留学生対象の日本語研修（サマーキャンプ）： （20名、期間：9/1～9/3、本校を拠点に各ブロックの留学生を招き、言語の多様性を学ぶ日本語研修を実施） 朝鮮理工大からの学生受入： （10名、期間：1月から3週間、本校での日本語学習をはじめ、学生交流、文化体験、現地視察を実施） グローバルキャンプ： （12名（タイ6、インドネシア6）、期間：9月から1週間、防災をテーマにアクティビティ、関連施設視察、学生交流、文化体験を実施）

⑧グローバル教育センター会議

1) 第1回（メール審議）

開催日：令和7年4月1日（火）～令和7年4月7日（月）

議 題：1. 台湾 雲林大学とのMOU（案）について

2) 第2回

開催日：令和7年6月2日（月）

議 題：1. 令和7年度業務分担について

3) 第3回（メール審議）

開催日：令和7年7月2日（水）～令和7年7月9日（水）

議 題：1. 海外渡航支援事業の支援金を支給について

4) 第4回

開催日：令和7年11月26日（水）

議 題：1. 令和7年度後期派遣学生の確定について

5) 第5回（メール審議）

開催日：令和8年3月23日（月）～令和8年3月24日（火）

議 題：1. 令和8年度短期派遣予定について

（2）自己評価（改善含む）および課題

①筑波大学連携事業 Global PBL

この講義では、高専生と筑波大学の外国人留学生TAがグループを作って実践的な課題に挑戦した。高専生は苦勞しながらも英語でのディスカッションやプレゼンテーションに挑戦することで、英語や発表スキルの向上を実感した。質疑・議論も普段より活発に行われ、各グループがユニークな解決策を提案し、全体として学びの深さと楽しさを感じる貴重な経験となった。アンケート（有効回答数 28）では、講義に対する満足度 78.6%が「非常に満足」、21.4%が「満足」と高く、28 名全員が「英語学習へのモチベーションが向上した」と答えた。また、実際に地域活性化に取り組む地域おこし協力隊の方々を訪れてお話を伺いインタビューをする体験学習は非常に評判が良かったので、来年度もテーマに沿った見学を取り入れたい。今後の課題は、本講義が5日間という短期間であるため、早い段階で外国人留学生TAと高専生を交流させグループディスカッションに積極的に参加できるよう促すことで、いかに活発な議論を展開させることができるかである。

②留学生（正課生）の受入

受入れの初期においては、日本語が不慣れで学習面でのサポートが必要であったり、食事等の習慣が合わず気持ちが沈んでしまったりする留学生も見受けられる。留学生に関わる関係教職員の注意深い見守りと支援が重要であるため、次年度もより関係各位の連携を密にしていく。

③タイ留学生受入

これまでに実施した学習・生活支援に係るノウハウや情報を集め、受入れている学生及び今後受け入れる学生に対して、より良いサポートが図れるように関係者と情報を共有する。

④本校留学生の活動支援

今後も留学生が日本文化等を体験できる機会や日本人学生と深く関わり友情を築けるような機会を積極的に設けていきたい。

⑤ひたちなか市国際交流協会との連携

次年度以降も連携を続け、更なる関係の強化を図っていく。

⑥トビタテ留学 JAPAN

次年度以降も適切に学生へ情報提供を行い、指導・支援をしていく。

⑦グローバルエンジニア育成事業

令和8年度のオンキャンパス活動では、2回目となるタイ高専からの1か月受け入れ研修が予定されており、プログラムが円滑に進むよう準備を進めていく。

現在実施している海外研修については、研修計画やコンテンツの充実を維持することに加え、リスクマネジメントや現地での安全対策、危機回避対策にも力を入れていく。

第2ブロック拠点校として、近隣および他ブロックの高専とも連携を取りながら、留学生のケア・サポートに注力していきたいと考えており、これには、日本人学生との交流を深めることも含まれる。

課題として、広報活動の不足を実感している。ターゲットオーディエンスへの情報伝達を強化し、イベントやプロジェクトの認知度を高めていきたい。

（3）今後の展開

令和年8年度には、これまで行ってきた協定校からの学生受け入れに加え、グローバルキャンプやタイ高専からの1か月受け入れ研修等、オンキャンパスでの業務に注力する必要がある。海外への学生送り出しと同等かそれ以上に、オンキャンパスおよび第2ブロック内を

考慮したプログラムの準備や実施にしっかり取り組んでいく。オフキャンパス活動（海外研修等）においては、これまでの派遣先への学生派遣において、研修内容の充実化・深化を図る。第2ブロック拠点校として、ブロック内の留学生支援にともなう高専間の連携、および留学生へのきめ細かな支援・指導の展開に注力する。

11. ダイバーシティ推進（ダイバーシティ推進センター）

（１）取組実績

教育活動全般を通じたダイバーシティの推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、ダイバーシティの意識啓発などを目的とし、ダイバーシティ推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

①盗撮機器等調査の実施

ダイバーシティ推進センター運営委員会委員が男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ、男子更衣室及び女子更衣室の盗撮機器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

②第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBT やジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・ 開催日：令和7年12月17日（水）
- ・ 対象者：第2学年学生
- ・ 講師：認定特定非営利活動法人 ReBit 齋藤 洋一 氏

③教職員対象ハラスメント防止講演会の開催

多様な構成員が協働して学校運営に参画できる職場環境の実現を目的として、ハラスメント防止啓蒙委員会との共催で次のとおり研修会を開催した。

- ・ 開催日：令和8年3月2日（月）
- ・ 対象者：全教職員
- ・ 講師：大和田・谷田部法律事務所 弁護士 谷田部 亘 氏

④ダイバーシティ推進センター運営委員会

1) 第1回

開催日：令和7年7月25日（金）～令和7年7月30日（水）

議題

審議事項

1. 令和7年度活動計画について
2. 女子中学生向けイベント「Mirai Girls Lab ～未来をのぞく理系体験～」の実施について
3. 令和7年度盗撮作機器等調査について

報告事項

1. 令和6年度活動報告について

2) 第2回

開催日：令和7年8月25日（月）～令和7年8月26日（火）

議題

審議事項

1. 第二学年対象ジェンダー講演会の実施について

3) 第3回

開催日：令和7年12月5日（金）～令和7年12月10日（水）

議題

審議事項

1. 令和7年度ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）行動計画に係る目標及び取組状況等調査について
2. ハラスメント防止講演会の実施について

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 盗撮機器等調査の実施について、女子トイレ、女子更衣室に加えて、男子トイレ、男子更衣室（プール）、多目的トイレも調査の対象とした。学生、教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的とし、次年度も引き続き調査を行う。
- ② DE&I 行動計画の重点項目である「高専における女子学生比率の向上」のための取組として、女子中学生向けイベントを実施した。女性教員のサポートのもと、本校学生団体が企画・運営を担当した。参加者から「高専は充実していて楽しそう」「将来のイメージが具体的になった」などの感想が寄せられ、高専進学を将来の選択肢として具体的に検討するきっかけを提供する機会となった。なお、本取組は今回が初めての試みであったが、次年度以降は今回の実施結果を踏まえ、参加者のニーズにより即した内容となるよう工夫していく。
- ③ 本校ホームページに掲載しているダイバーシティ推進センターの女子中学生向けコンテンツを更新した。今後も一層の充実を図る必要がある。

（3）今後の展開

高専機構のダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）宣言及びダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）行動計画に基づき、目標達成に向けて引き続きダイバーシティの推進に取り組んでいく。

12. 地域連携・研究活動

(副校長(研究・産学官連携)、社会連携センター、産学連携センター)

(1) 取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長(研究・産学官連携)、社会連携センター並びに産学連携センターにおいて立案し、次の活動を行った。

【副校長(研究・産学官連携)】

①PRIME 企業会(連携企業会)

1) 会員企業・団体数

会員企業・団体数は令和6年度末時点の17から増加を続けており、令和8年3月27日現在で32の企業等が承認され会員となっている。

2) 実施された企画

1. 研究活動支援助成金

本校教員の研究活動支援を目的とした寄付金(受入れ:産学連携センター)

2. 茨城高専生のためのインターンシップ入門イベント(5/11(日))

本科・専攻科51名の学生がオンラインで参加し、会員企業12社の事業内容と夏のインターンシップ内容に関する説明を受け、質疑応答で交流した。

3. 学生プロジェクト・教員研究シーズ発表会(3/3(火))

学生5演題と教員2演題の発表があり、会員企業8社が聴講・討論が行われた。

4. 企業訪問ツアー(3/13(金))

本科生6名が会員企業2社を訪問し、オフィス・工場等を見学した。

5. 小山高専見学・学生交流(3/25(水))

本科生6名が小山高専を訪問して「思索 Factory」を見学し、学生間の交流を図った。

【社会連携センター】

①茨城高専アソビサイエンス

学生の研究活動、課外活動、PBL 実験で取り組んだ成果を披露するとともに、地域の子供たちに科学技術の魅力を発信するイベントを実施した。広報戦略室との連携を強化し、従来の独自開催に加え、行政機関や研究機関の協力を得て外部主催イベントでも実施し、県内6か所で実施した。

1) 日本原子力研究開発機構 J-PARC センター施設公開イベント内(8/23(土)実施、東海村)

- J-PARC センターとの連携で実施。「お絵かき水族館」(丸山研究室)と「放っとケーキ」(4E4I 合同 PBL) を出展。
- 2) 那珂フュージョン科学技術研究所 施設公開イベント内 (11/29(土)実施、那珂市)
那珂研との連携で実施。「お絵かき水族館」(丸山研究室)と「放っとケーキ」(4E4I 合同 PBL) を出展。
- 3) ほっとステーション事業さんふらわぁ宿泊体験イベント内 (10/19(日)、大洗町): 水戸市、茨城町、笠間市、小美玉市、城里町、ひたちなか市、大洗町、東海村、常陸大宮市、那珂市、大子町の各教育委員会、茨城トヨペット、筑波大学との連携で実施。「お絵かき水族館」(丸山研究室)、「カードでプログラミング」(丸山研究室)と「放っとケーキ」(4E4I 合同 PBL) などを出展。
- 4) 道の駅日立おさかなセンター旬漁祭イベント内 (10/26(日)、日立市)
日立市観光振興課との連携で実施。「お絵かき水族館」(丸山研究室)と「放っとケーキ」(4E4I 合同 PBL) を出展。
- 5) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会イベント内 (11/1(土)-2(日)、ひたちなか市)
ひたちなか市青少年課との連携で実施。「お絵かき水族館」(丸山研究室)、「筋電ロボット」(澤畑研究室)、「放っとケーキ」(4E4I 合同 PBL) を出展
- 6) アソビサイエンス in イーアスつくば (3/28(土)、つくば市)
独自開催。「ロボコン実演」(ロボット部)、「海洋プラアクセサリー製作」(園芸環境部)、「筋トレーサー」(澤畑研究室)、「お絵かき水族館」(丸山研究室) を出展。

②ひたちなか市との包括連携協定関係

- 1) ひたちなかネットワークシステム(HNS)関係
ひたちなか市及びその近郊地域の産学官金言連携を目的とした「ひたちなかネットワークシステム (HNS)」の設立に向け、学术界担当としてアントレプレナーシップ事業等の打ち合わせに参加。HNS は令和 8 年度に正式発足。
- 2) 市民大学の開講
開催せず。
- 3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会
11 月 1 日、2 日にひたちなか市総合運動公園総合体育館にて開催され、茨城高専のブースにて下記 3 件の出展と、発表ひろ場にて専攻科生による 5 件の口頭発表が行われた。
(ブース出展)
1. 筋電ロボット (澤畑研究室)
 2. お絵描き水族館 (丸山研究室)
 3. 放っとケー機 (4E4I 合同 PBL)
- (発表ひろ場)
1. ドローンの研究開発について (岡本研 2AM 学生)

2. 知っているけどわからない GPS（岡本研 1AE 学生）
3. 二重スリット実験における量子の振る舞いの可聴化（奥出研 1AI 学生）
4. スマートフォンセンサおよび視線計測を用いた自転車走行特性の分析（奥出研 2AI）
5. ひかる、うごく、はたらく！茨城高専で、ミクロな分子機械、たんぱく質をつくる（千葉研 2AC 学生）

4) TECH-MECH ひたちなか

令和 6 年度に茨城高専 60 周年×ひたちなか市 30 周年の記念事業として開始された TECH-MECH ひたちなかを継続して実施した。本校学生の創造的活動を支援する取り組みとして「ブルーウェーブ助成金」を展開した。障害者福祉，キャリア教育，干し芋産業，自然環境など様々な分野の社会課題に対して学生がアイデアを創出し、地域の協力者とも連携して実践。2 月 19 日に実施された成果報告会での学生による発表では、大谷市長を始めとした多くの参加者から高い評価を得た。

5) 学童クラブ育成支援充実

学童クラブ育成支援充実事業として、ひたちなか市と委託契約を締結。放課後や学校の理科室を利用し、茨城高専の教員（C 系 小林准教授を中心に、L 部 原教授、G 部 二田准教授、E 系 服部准教授）と学生が講師となって、高野小学校・美乃浜学園・佐野小学校の児童を対象に理科の実験を中心とした体験活動を行い、児童たちの学習に対する意欲・関心を高める活動の下記の日程で行った。

・長期プログラム

回	開催月	内 容	開催場所
1	8 月	DNA ストラップをつくろう	高野小学校
2	9 月	超伝導コースター	高野小学校
3	10 月	海岸ゴミをリサイクル！キーホルダーづくり	高野小学校
4	11 月	虹をつくろう	高野小学校
5	12 月	めめまるとあそぼう	高野小学校
6	12 月	空気砲と天体観測	高野小学校

・短期プログラム

回	開催月	内 容	開催場所
1	8 月	化学の力でトコトン遊ぼう！	美乃浜学園
2	8 月	LEGO SPIKE	美乃浜学園
3	8 月	超伝導コースター	美乃浜学園
4	8 月	ベンゼンをつくろう	美乃浜学園
5	3 月	空気で遊ぼう	佐野小学校
6	3 月	静電気で遊ぼう	佐野小学校
7	3 月	めめまるとあそぼう	佐野小学校

6) ひたちなかキャリア探検ラリー

ひたちなか市教育委員会が主催するキャリア探検ラリーに参画し、8月23日に茨城高専にて、市内の小学生を対象に「高専や科学に関するクイズ」、「マイコンを使ったLED点滅実験」、「液体窒素を使った科学実験」を実施

7) 環境フェスタ・シンポジウム 2026

2月21日に、ひたちなか市主催による「環境フェスタ・シンポジウム 2026」がしあわせプラザ（那珂湊総合福祉センター）にて開催され、以下のテーマを学生が発表した。

1. ほしいも残渣堆肥の悪臭を抑制する生分解性シートの開発
2. 海洋プラスチックごみを利用したアクセサリ作りと環境問題の啓発活動
～PLAダ・カイの開発

③ 大洗町教育委員会との包括連携協定関係

6月13日、大洗町庁舎において、相互連携のもと双方の資源を活用し、地域の次世代を担う人材の育成に資することを目的とした包括連携協定を締結した。

令和2年度より必修化された小学校プログラミング教育の教材を、大洗町教育委員会とともに開発し支援することを目的とした「小学校プログラミング教育教材製作プロジェクト」を継続して実施した。

1) 放課後子ども教室

1. 金融教室（神野河教員）10/3（金）、大洗小学校りんりんくらぶ
2. 金融教室（神野河教員）11/10（月）、南小学校もこもこクラブ
3. カードDEプログラミング（丸山教員）12/2 大洗小学校りんりんくらぶ
4. カードDEプログラミング（丸山教員）12/15 南小学校もこもこクラブ
5. スノードーム製作（鈴木校長）1/16 大洗小学校りんりんくらぶ
6. スノードーム製作（鈴木校長）1/19 南小学校もこもこクラブ

2) 理科授業支援

1. Algodoo 地震シミュレーション（安細教員）南中学校3年生
2. LEDに関する授業とセンサーライト製作実験（澤畑教員）南小学校6年生

④ 令和7年度おもしろ科学セミナーの開催

小学生に理科の楽しさを体験してもらうことを目的として、令和7年度おもしろ科学セミナーを開催した。おもしろ科学セミナー当日は134名が受講した。

講座番号	テーマ名	受講者数
1-A	【午前の部】紙コップロボットを作って AI を体験しよう！	19
1-B	【午後の部】紙コップロボットを作って AI を体験しよう！	14
2-A	キラキラな結晶を作ってみよう！	15
2-B	キラキラな結晶を作ってみよう！	15
3	電池がなくても聞こえるラジオを作ろう！	18
4-A	【午前の部】 しゅみレータで世界をコンピュータの中に	7
4-B	【午後の部】 しゅみレータで世界をコンピュータの中に	5
5-A	【午前の部】 あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究 2025	9
5-B	【午後の部】 あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究 2025	5
6	小さな電気工場！水と鉛筆でオルゴールを奏でよう	14
7	作って楽しい！見て感動！立体万華鏡！	13

⑤公開講座の開催

本校では、学校広報、社会貢献の一環として、中学・高校生、一般市民を対象に公開講座を開講している。令和7年度については、開講した講座は1講座にとどまった。

講座の名称	受講定員	受講者数
ラベンダーせっけんを作ろう！	6	6
計	6	6

【産学連携センター】

①茨城高専知財委員会による審査

年金納付：3件、審査請求：1件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	名称	担当教員	審査結果
年金納付	結晶化分析装置及び結晶化分析方法 ※高専機構単独		承認

年金納付	熱電変換素子出力制御装置 ※企業との共同出願した権利	E 系 関口教授	承認
年金納付	熱電変換素子出力制御装置 ※企業との共同出願した権利	E 系 関口教授	承認
審査請求	天井裏走行ロボットおよび天井裏配線支援システム ※企業との共同出願	M 系 長谷川准教授	承認

②科学研究費助成事業講習会の開催

科研費の応募の活性化および採択件数の増加を目的とし、一関高専の小林校長を講師として、7月2日に本校大会議室で開催した。

【研究・産学官連携委員会】

令和7年度は10回開催した。開催日時と議題は下記のとおり。

- 1) 第1回：令和7年4月7日（月）メール審議（4月10日（木）期限）

議題【審議事項】

1. 令和7年度高専一長岡技科大共同研究の申請順位について
2. 大洗町と本校との包括連携協定書について

- 2) 第2回：令和7年6月11日（水）

議題【審議事項】

1. 令和7年度公開講座の開催について
2. 実施許諾契約書の締結について
3. おもしろ科学セミナーについて

- 3) 第3回：令和7年7月18日（金）メール審議（7月24日（木）期限）

議題【審議事項】

1. 特許権の年金納付について

- 4) 第4回：令和7年9月11日（木）メール審議（9月17日（水）期限）

議題【審議事項】

1. 特許権の年金納付について
2. 特許権の年金納付について

- 5) 第5回：令和7年10月9日（木）メール審議（10月10日（金）期限）

議題【審議事項】

1. 安全保障輸出管理取扱規程の制定について

- 6) 第6回：令和7年11月5日（木）メール審議（11月11日（火）期限）

議題【審議事項】

1. 令和7年度校長裁量経費（研究推進支援経費）の執行について

- 7) 第7回：令和7年12月4日（木）メール審議（12月10日（水）期限）

議題【審議事項】

1. 令和7年度校長裁量経費（研究推進支援経費）の執行について
- 8) 第8回：令和8年1月6日（火）メール審議（1月14日（水）期限）

議題【審議事項】

1. 特許出願審査請求について
- 9) 第9回：令和8年2月9日（月）メール審議（2月13日（金）期限）

議題【審議事項】

1. 令和7年度茨城工業高等専門学校連携企業会研究活動支援募集要項（案）について
- 10) 第10回：令和8年3月26日（月）メール審議（3月31日（火）期限）

議題【審議事項】

1. 令和7年度茨城工業高等専門学校連携企業会研究活動支援経費の執行について

【研究協力・地域連携係関係】

① 外部資金の受入

令和7年度外部資金受入一覧（件数と受入金額）

資金種別	受入件数	受入金額（円）	備考
共同研究	15 件	8,443,000 円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0 件	0 円	
受託事業	1 件	450,000 円	学童クラブ育成支援充実事業
補助金	0 件	0 円	
研究助成金	3 件	3,430,000 円	
寄附金	18 件	8,202,300 円	教育研究基金 8 件を含む。
受託試験料	0 件	0 円	
技術相談料	1 件	59,160 円	
科研費	15 件	直接 7,840,000 円 間接 2,352,000 円	補助金 0 件、基金 10 件、分担金 5 件

②researchmap への登録

教員に対して researchmap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

- ① 本校学生が研究活動、課外活動、PBL 実験の成果を発表し、地域の子供たちに科学技術の魅力を広めるため取り組みとして「茨城高専アソビサイエンス」を実施した。従来の独自開催だけでなく、実施コストを抑えてより多くの地域で実施するために、県内の行政機

関・研究機関と連携することによって合計6か所で開催できた。今後、県南エリアを含む県内の広域に展開してゆく。

- ② PRIME 企業会の活動が本格始動し、本校の教育・研究活動へ支援がなされた。今後、PRIME 企業会からの支援が学校に広く行き渡るよう、連携体制の最適化を図る。
- ③ ひたちなか市と大洗町との連携事業として、地域学校の授業・放課後活動の支援を実施し、高い評価を得ている。今後も、担当する教員および補助学生の負担低減を図りながら、より円滑に推進してゆく。

(3) 今後の展開

茨城県内に多数立地する国立研究機関との連携を強化し、研究・教育・広報活動を推進してゆく。共同研究や研究設備の相互活用、人材交流を通じて研究水準の向上と高度な知見の教育への還元を図るとともに、アソビサイエンスに代表される体験型地域イベントを研究機関と共同で実施し、科学技術の魅力発信や次世代人材の育成を推進する。これらの取組により、地域と連動した持続的発展の基盤構築と、本校の社会的認知度・存在感の向上を目指す。

急速に進展する技術革新や社会構造の変化を背景に、高専には専門人材の育成にとどまらず、地域課題の解決に主体的に関与する役割が求められている。特に AI 技術は、行政サービスや産業活動の高度化において重要な基盤となりつつある。ひたちなか市をはじめとする地元自治体や企業との連携を通じ、地域における AI 活用の企画・実装に取り組むことで、高専は地域社会の発展に貢献するとともに、学生に対して実社会と直結した学習経験を提供し、実践力と課題解決力の育成につなげてゆく。

13. 教育組織(教員任用審査会)

(1) 取組実績

① 採用

- ・ 令和8年4月1日付けで、後任補充として、一般教養部に講師1名を採用した。

② 昇任

- ・ 専門共通教育部から推薦のあった候補者1名に対し審査を実施し、令和8年4月1日付けで助教から准教授へ昇任させた。

③ 再雇用

- ・ 令和8年度再雇用を希望する教員4人に対し、所属系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、同人らの再雇用を承認した。

④ 特命教員（非常勤、有期雇用）

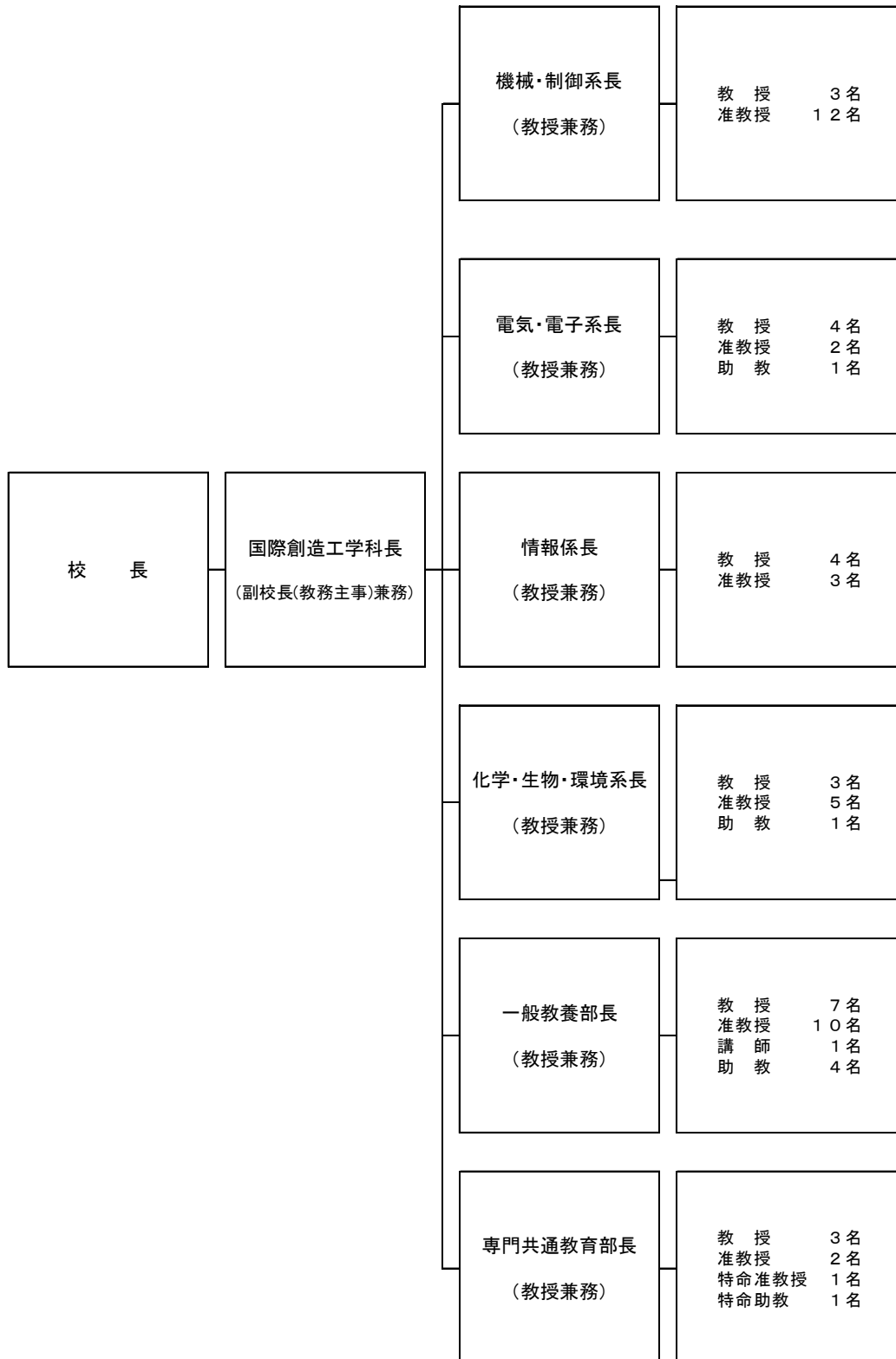
- ・ 令和8年4月1日付けで以下のとおり実施した。
 - ・ 電気・電子系の特命准教授1名の契約を更新した。
 - ・ 専門共通教育部の特命准教授1名、特命助教1名について、契約を更新した。

⑤ 非常勤講師

- ・ 令和7年度非常勤講師として、42人を雇用した。
- ・ 各系等から推薦のあった令和8年度非常勤講師候補者について審査を行い、42人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

教育職員 配置図

令和8年4月1日現在



14. 教育支援組織（事務部）

（１）取組実績

① 採用

令和７年４月１日付けで、以下のとおり実施した。

総務課人事・労務係に事務職員１人を採用した。

学生課学生支援・寮務係に看護師１人を採用した。

令和８年１月１日付けで、休業代替職員として総務課財務係に事務職員１人を採用した。

② 配置換・課内異動・出向・復帰

令和７年４月１日付けで、以下のとおり実施した。

有明高専から学生課長が着任した。

総務課人事・労務係人事・労務主任１人を総務課用度係用度主任に配置換した。

令和７年７月１日付けで、以下のとおり実施した。

学生課入試係から係員１人が茨城大学に出向した。

茨城大学から主任１人が総務課総務係総務主任に復帰した。

総務課総務係係員１人を学生課入試係に配置換した。

令和８年２月１日付けで、筑波大学から係員１人が総務課施設管理係に復帰した。

③ 昇任

事務部長心得であった職員が事務部長に昇任した。

令和７年４月１日付けで、以下のとおり実施した。

総務課人事・労務係員１名を総務課人事・労務係人事・労務主任に昇任させた。

総務課財務係員を総務課財務係財務主任に昇任させた。

令和８年１月１日付けで、総務課財務係員を総務課財務係財務主任に昇任させた。

④ 再雇用

令和７年４月１日付けで、以下のとおり実施した。

学生課学生支援・寮務係に看護師１人を再雇用した。

学生課教務係の再雇用職員１人の再雇用契約を更新した。

キャリア支援室の再雇用職員１人を学生課教務係として再雇用契約を更新した。

⑤ 有期雇用

令和７年４月１日付けで、学生課学生支援・寮務係に事務補佐員１人を採用した。

⑥ 非常勤

令和7年4月1日付けで、以下のとおり実施した。

学生課学生支援・寮務係事務補佐員1人を採用した。

後任補充として、学生課学生支援・寮務係事務補佐員1人を採用した。

後任補充として、総務課施設管理係臨時用務員1人を採用した。

非常勤職員13人（事務補佐員5人、カウンセラー2人、スクールソーシャル
ワーカー1人、学生寮指導員5人）の契約を更新した。

令和7年5月1日付けで、以下のとおり実施した。

学生課学生支援・寮務係学生寮指導員1名を採用した。

総務課用度係事務補佐員1名の契約を更新した。

令和7年6月16日付けで、学生課学生支援・寮務係看護師1名を採用した。

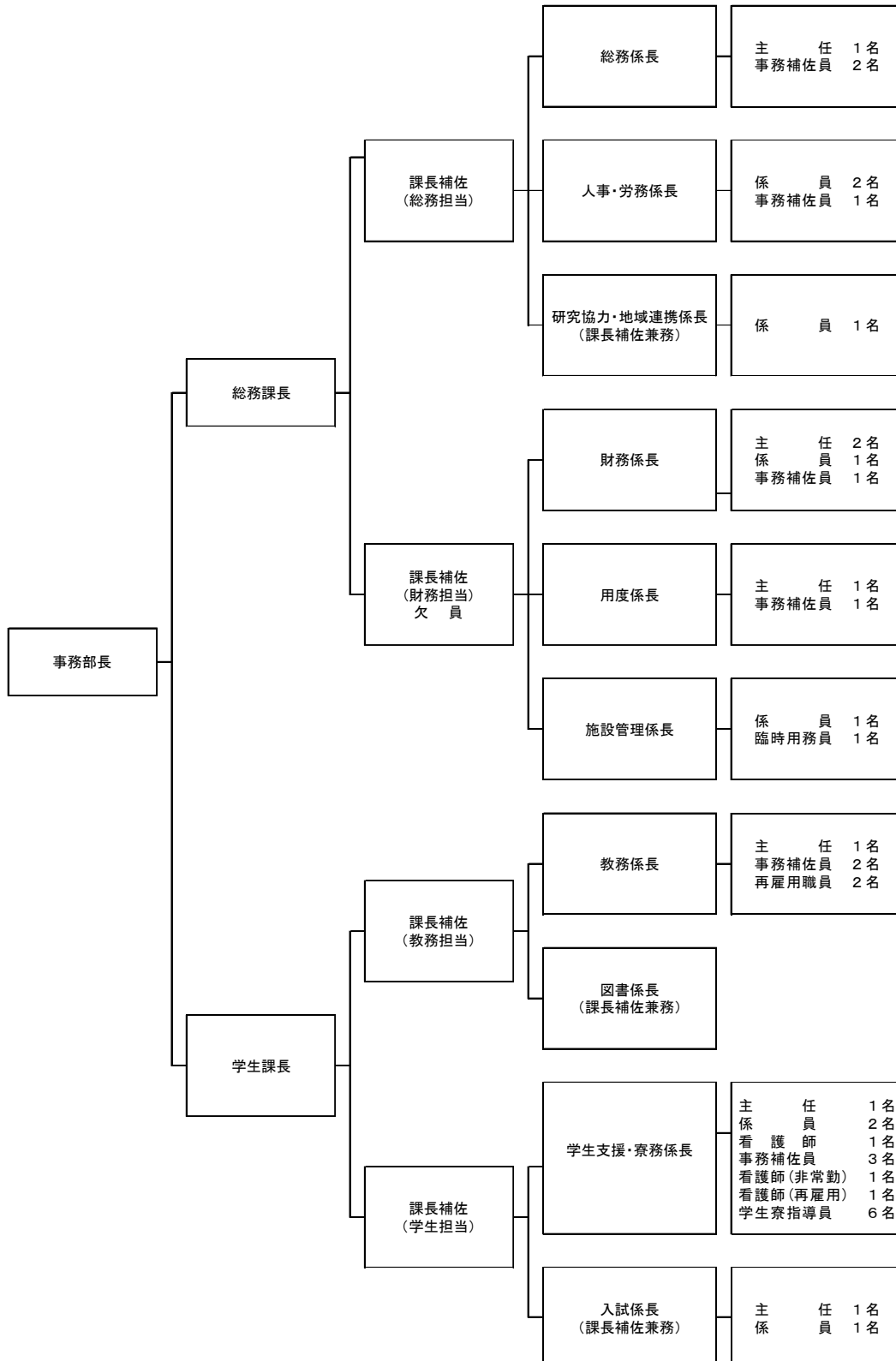
令和7年9月1日付けで、学生課教務係事務補佐員1人を採用した。

令和7年10月1日付けで、総務課人事・労務係事務補佐員1人を採用した。

令和7年11月1日付けで、学生課学生支援・寮務係事務補佐員1人を採用した。

事務職員 配置図

令和8年4月1日現在



(2) 研修への参加状況

名 称 : 令和7年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構
日 程 : 令和7年4月16日(水)～令和7年4月18日(金)
参加人数 : 1名
実施方法 : 対面

名 称 : 令和7年度学務担当者向けオンデマンド研修(第1回～第3回)
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構
日 程 : 令和7年5月～令和8年3月
参加人数 : 各回1名、計3名
実施方法 : オンデマンド

名 称 : 2025年度国立高等専門学校機構グローバルSD研修
主 催 : 独立行政法人国立高等専門学校機構
日 程 : 令和7年6月～令和8年3月
参加人数 : 1名
実施方法 : オンライン、OJT

名 称 : 公文書管理研修Ⅰ(独法等向け第1回)
主 催 : 独立行政法人国立公文書館
日 程 : 令和7年5月23日(金)
参加人数 : 2名
実施方法 : オンライン

名 称 : 公文書管理研修Ⅰ(独法等向け第2回)
主 催 : 独立行政法人国立公文書館
日 程 : 令和7年10月29日(水)
参加人数 : 2名
実施方法 : オンライン

名 称 : 公文書管理研修Ⅱ(第1回)
主 催 : 独立行政法人国立公文書館
日 程 : 令和7年6月24日(火)～令和7年6月25日(水)
参加人数 : 1名
実施方法 : オンライン

名 称 : 公文書管理研修Ⅱ (第2回)
主 催 : 独立行政法人国立公文書館
日 程 : 令和7年11月26日(水)～令和7年11月27日(木)
参加人数 : 5名
実施方法 : オンライン

名 称 : 令和7年度東京地区及び関東・甲信越地区実践セミナー(財務の部)
主 催 : 一般社団法人国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部
日 程 : 令和7年11月21日(金)
参加人数 : 1名
実施方法 : オンライン

名 称 : 英語研修(令和7年度独立行政法人国立高等専門学校機構語学研修制度)
主 催 : 茨城工業高等専門学校
日 程 : 令和7年9月～令和8年2月
参加人数 : 4名
実施方法 : オンライン

名 称 : 令和7年度東京地区及び関東・甲信越地区実践セミナー
(人事・労務・安全管理の部)
主 催 : 一般社団法人国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部
日 程 : 令和7年12月4日(木)
参加人数 : 2名
実施方法 : オンライン

名 称 : 令和7年度茨城大学係長研修
主 催 : 茨城大学
日 程 : 令和7年8月21日(木)
参加人数 : 2名
実施方法 : 対面

15. 教育支援組織（技術教育支援センター）

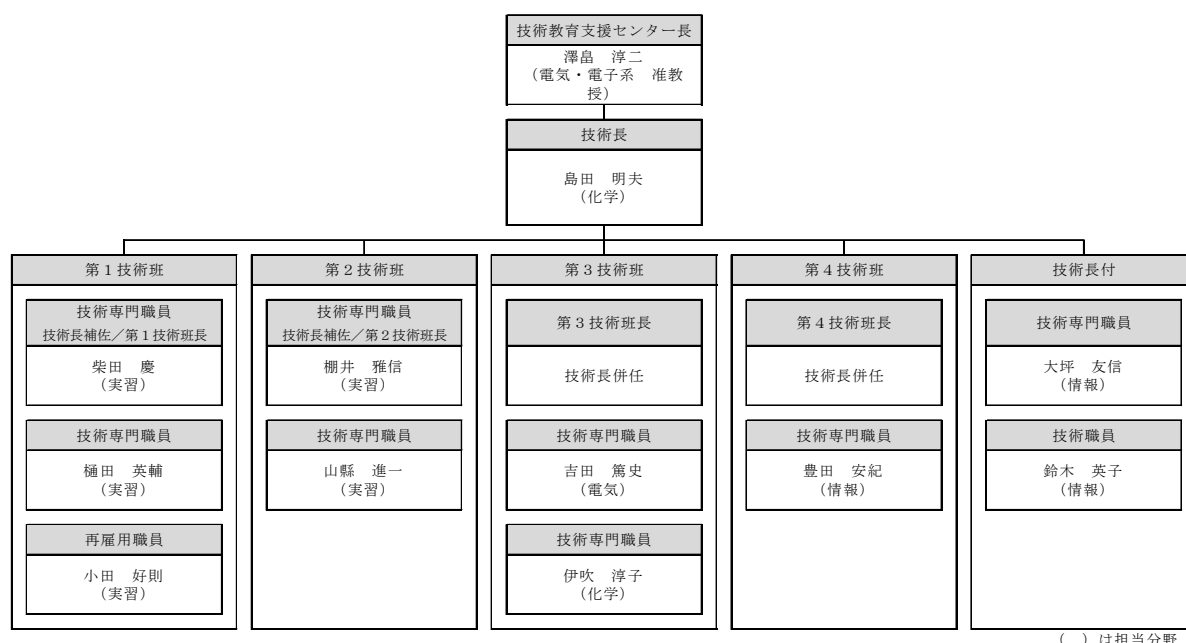
（１）技術教育支援センターの概要

①設立の目的（茨城工業高等専門学校技術教育支援センター規則 第２条）

技術教育支援センターにおいては、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的とする。

（２）組織

技術教育支援センター組織構成図 （令和７年４月１日現在）



（３）職務内容等

①技術教育支援センターとしての全般的業務

＜茨城工業高等専門学校技術教育支援センター規則第５条第１項（抜粋）＞

センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- （１）センターの業務計画等の策定に関すること。
- （２）技術研修、技術発表会、技術講演会等の企画・実施に関すること。
- （３）学生の実験・実習及び演習の技術指導に関すること。
- （４）学生の卒業研究に係る技術指導に関すること。
- （５）学生の教育教材製作に関する技術支援に関すること。
- （６）学生の創造性開発活動等への技術支援に関すること。
- （７）実験、実習室等の設備・備品の保守管理に関すること。

- (8) 教員の教育研究活動（共同研究を含む。）への技術支援に関すること。
- (9) 民間等との共同研究への技術支援に関すること。
- (10) 学校の管理・運営等に係る業務の技術的支援に関すること。
- (11) その他センターに必要な業務に関すること。

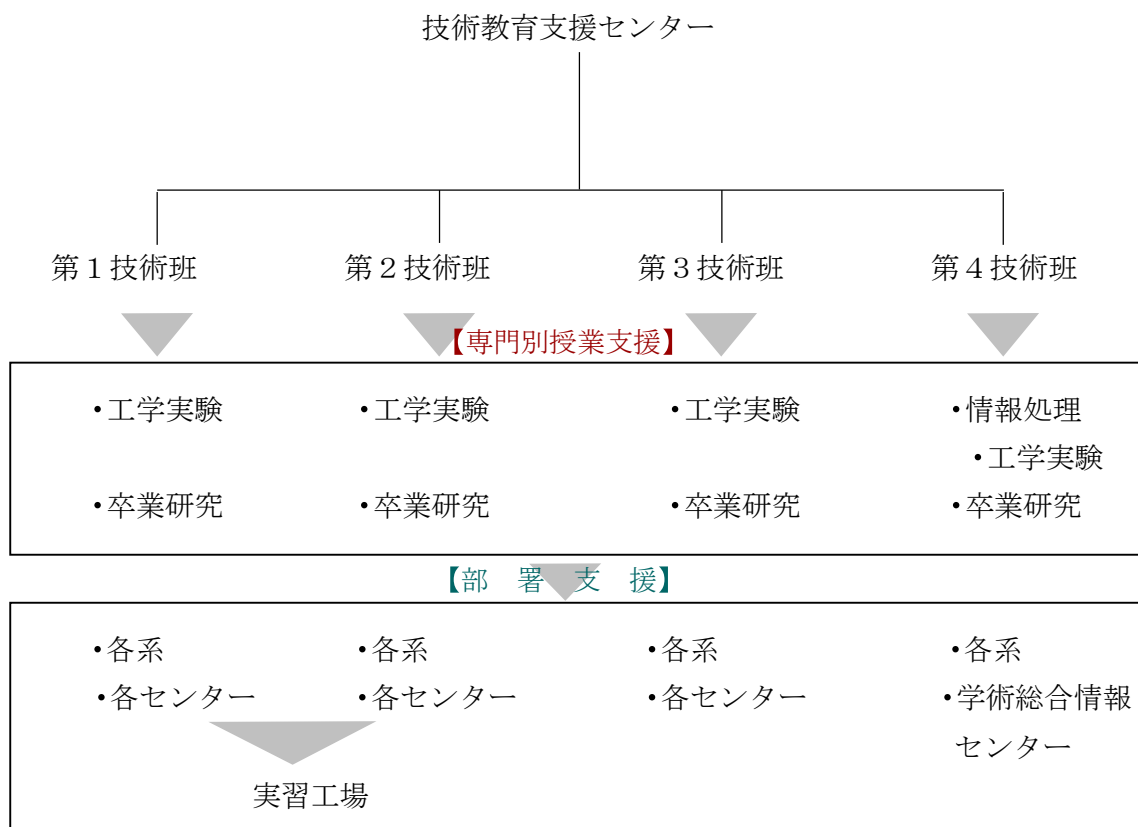
2 センターの各技術班は、次に掲げる業務を分掌する。

- (1) 第1技術班 ……前項各号及び教育活動立案業務
- (2) 第2技術班 ……前項各号及び創造性開発に関する業務
- (3) 第3技術班 ……前項各号及び地域貢献立案に関する業務
- (4) 第4技術班 ……前項各号及び情報処理に関する業務

＜茨城工業高等専門学校技術教育支援センター管理運営会議規則第2条（抜粋）＞
会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 技術教育支援センター（以下「センター」という。）及び実習工場の管理運営及び業務計画に関すること。
- (2) センターの研究技術指導に関すること。
- (3) センター技術職員の教育・研修に関すること。
- (4) その他センターの運営に必要と認められること。

③職務遂行部署 （個人の活動部署）



(4) 活動報告

①授業等への支援

令和7年度授業等への支援について、各系・部署の要請に沿って実験、実習、演習、授業などの支援を行った。年度開始前に各系・部署からの支援要請を受け取り、調整を行った後に技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表の作成を行った。その後、運営会議にて了承を受けた後に上記スケジュールに沿って支援業務を行った。

②製作、作業支援

令和7年度製作等への支援について、各系・部署の要請に沿って卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作などの支援を行った。また、部活動に対してはロボット部における高専ロボコン支援として練習フィールドの製作を行った。

(5) 講習会等の開催報告

技術教育支援センターでは支援業務の一環として部活・同好会の学生を対象に基本機械操作講習会を定期的に開催している。本講習では主に切削加工に用いる汎用機に関して、基礎的な知識・操作を学ぶ。本年度はロボット部1年生を対象に、5月に開催した。

①基本機械操作講習会

実施期間：令和7年5月8日（木）、14日（水）、15日（木）、21日（水）

実施方法：対面方式での講習

講習会場：実習工場

対 象：ロボット部26名 1年生23名、2年生1名、3年生1名、4年生1名

講習内容：1. ケガキの使い方、ポンチの打ち方、ボール盤の使用法

2. バンドソーの使用法

3. 小型フライス盤の使用法

4. ヤスリの使用法

指 導 者：実習工場技術職員（棚井・山縣・柴田・樋田）

②普通旋盤作業基礎講習会

実施期間：令和8年2月24日（火）、25日（水）

実施方法：対面方式での講習

講習会場：実習工場

対 象：ロボット部

講習内容：1. 旋盤の操作方法

2. 使用工具の種類と用途・加工条件

3. 段付き軸の加工・ねじ加工等

指導者：棚井

(6) 研修会・講習会・学会等の参加報告

令和7年度中に種々の講習会が開催された。情報共有やスキル向上などを目的として本センター職員が参加したものを以下に記す。

①令和7年度独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校

技術職員特別研修会(電気系)

主 催：独立行政法人国立高等専門学校機構(担当校：福島工業高等専門学校)

日 程：令和7年8月26日(火)～8月28日(木)

場 所：長岡技術科学大学

出 席 者：吉田

実施方法：対面

②令和7年度関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会

主 催：長野工業高等専門学校

日 程：令和7年9月1日(月)～9月3日(水)

場 所：長野工業高等専門学校

出 席 者：樋田

実施方法：対面+

③IT人材育成研修会

主 催：独立行政法人国立高等専門学校機構本部

日 程：令和7年12月4日(木)、12月5日(金)

場 所：東京都中央区八丁堀 3-14-2 東八重洲シティービル7F

出 席 者：情報システム等の運用管理に携わる教職員(豊田)

実施方法：研修会場での集合研修

④関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会

主 催：長岡工業高等専門学校

日 程：令和7年12月10日(水)

場 所：オンライン

出 席 者：情報システム等の運用管理に携わる教職員

(学術総合情報センター長、総務係、豊田)

実施方法：Teams によるテレビ会議

⑤アーク溶接等の業務に係る特別教育

主 催：水戸労働基準協会

日 程：令和 8 年 2 月 26 日(木)、27 日(金)

場 所：中央安全衛生教育センター

出 席 者：島田・山縣

実施方法：対面

(7) 茨城高専おもしろ科学セミナー2025

本校にて小学生向け理科教室おもしろ科学セミナー2023 が開催された。令和 7 年度は小学 4～6 年生を対象に講座が開かれ、技術教育支援センターも「作って楽しい！見て感動！立体万華鏡」というテーマで講座を開講した。本年は約 13 名の生徒が参加した。

(8) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会 2025

科学の祭典について例年出展していたが、出展枠の関係上見送り。

(9) 会議開催の記録

①令和 7 年度技術教育センター管理運営会議

令和 7 年度は対面会議ではなく、資料での回覧形式とした。以下に回覧した報告事項を示す。

1) 令和 6 年度技術教育支援センター活動報告書

・教育支援センター報告書 2025 (令和 6 年度) 参照

2) 令和 7 年度の活動について

(a) 令和 7 年度技術職員週間スケジュール

・4 月の運営会議にて了承済み (サイボウズに記載)

(b) 科学研究費申請へ応募

(c) 地域貢献活動

・おもしろ科学セミナー

3) 令和 7 年度研修及び会議

(a) 令和 7 年度東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会
長岡技術科学大学 8 月 26 日 (火)

(b) 令和 7 年度関東信越地区国立工業高等専門学校技術長会議
木更津高等専門学校 8 月 27 日 (水)

②技術教育支援センター会議

必要に応じてメール・回覧等による連絡を行った。

(10) 技術教育支援センター 技術職員 保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

令和7年4月1日現在（複数資格取得者含む）

資格名		取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員（機械）	4
	職業訓練指導員（電気）	2
	職業訓練指導員（電子）	2
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1級機械加工技能士（普通旋盤作業）	2
作業環境測定士	第1種作業環境測定士（鉱物性粉じん）	1
	第1種作業環境測定士（特定化学物質）	1
	第1種作業環境測定士（金属類）	1
	第1種作業環境測定士（有機溶剤）	1
衛生管理者	第1種衛生管理者	5
作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	3
	鉛作業主任者	2
	有機溶剤作業主任者	2
特別教育インストラクター	局所排気装置等定期自主検査インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
	中学校教諭免許状（数学）	1
	高等学校教諭免許状（数学）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	1
危険物取扱者	甲種危険物取扱者	1
	乙種第4類危険物取扱者	7
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1

技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1
特別教育	アーク溶接特別教育	4
	自由研削砥石特別教育	5
	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	特定粉じん作業特別教育	5
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	2
	HDBaseT インストーラーエキスパート	1
CAD 利用技術者試験	2次元 CAD 利用技術者試験 2 級	1
ビジネス・キャリア検定	2 級生産管理オペレーション（作業・工程・設備管理）	1
	2 級生産管理オペレーション（購買・物流・在庫管理）	1
	2 級生産管理プランニング（生産システム・生産計画） （加工・組立型）	1
	2 級生産管理プランニング（生産システム・生産計画）（プロセス型）	1
	2 級経営情報システムスペシャリスト（情報化活用）	1
	2 級経営情報システムスペシャリスト（情報化企画）	1
	2 級ロジスティクス管理スペシャリスト	1
	2 級ロジスティクス・オペレーションスペシャリスト	1
無線従事者	第1 級陸上無線技術士	1
エネルギー管理士	エネルギー管理士（熱分野）	1
機械設計技術者	2 級機械設計技術者	1
製造保安責任者	乙種機械	1

(11) 各種委員会委員一覧（技術教育支援センター職員発令分）

①安全衛生委員会	・構成員 島田 明夫
②安全衛生委員会（実習工場に係る技術職員）	・構成員 柴田 慶
③薬品管理専門部会	・構成員 伊吹 淳子
④放射線障害予防専門部会	・構成員 柴田 慶
⑤研究・産学官連携委員会	・構成員 棚井 雅信
⑥ダイバーシティ推進センター	・構成員 鈴木 英子
⑦ダイバーシティ推進センター運営委員会	・構成員 鈴木 英子
⑧技術教育支援センター管理運営会議	・構成員 島田 明夫
⑨情報セキュリティ推進委員会	・構成員 豊田 安紀
⑩学術総合情報センター	・構成員 豊田 安紀
⑪広報委員会	・構成員 吉田 篤史

(12) 技術教育支援センター今後の計画、目標

技術教育支援センターでは実習・実験のみならず、授業や卒業研究・特別研究の支援を通して技術教育をサポートしてきた。一方で、近年製作依頼における品物形状の複雑化をはじめとして各系・研究室からの依頼の複雑化・多様化が進んでおり、技術や知識へのより深い理解の必要性が高まっている。ここから、より円滑で柔軟な依頼対応が出来るよう技術職員のスキル向上を目指す。具体的には技術教育の要である実習・実験を通して技能・技術に関してのより深い理解とノウハウの蓄積に努めると共に、各員のスキルを活かした多様な支援の中でその強化を図る。

また、国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った支援が出来るよう技術職員の資質向上に努力する。これに際して学会発表や研修会などに対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得等を目指す。

加えて、年2回程度の技術教育支援センターニュースの発行やセンターのウェブサイトにおいてリアルタイムに内外へ情報発信可能な場を設けると共に、小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動依頼に対して柔軟に対応できるよう努める。

16. 組織・運営（総務委員会）

（1）取組実績

①学生による担任評価アンケートの実施

自己点検に係る委員会業務の見直しに伴い、従来、自己点検・評価委員会が実施していた学生による担任評価アンケートについて、本委員会が所掌することとなったため、「学生による担任評価アンケートに関する申合せ」を制定し、令和8年2月に実施した。

②生成 AI 利活用の推進について

1) 生成 AI 利活用ガイドライン等の制定

教育の質の向上と学習支援の一環として学生による生成 AI の利活用を推進するとともに、学生が安心して生成 AI を利活用できるよう、以下の2点を整備し、学生及び教職員へ周知した。

- ・茨城高専・生成 AI 利活用ガイドライン
- ・生成 AI の利用方法と使用上の注意点

また、生成 AI 利活用推進に当たり、未成年者の利用に際しては保護者等の同意が必要とされたため、未成年者を含む学年の保護者等には同意の依頼を、成年者により構成される学年の保護者等には推進への理解を依頼した。

2) F D ・ S D 研修 生成 A I 利用研修の実施について

生成 AI（ChatGPT 等）の基本操作から教育・業務での応用例までを体系的に学び、活用レベルの底上げと安全運用を図るため、本校教員を講師として、生成 A I 利用研修を実施し、約 50 名の教職員が受講した。

3) 有料版 ChatGPT 利用に係る予算補助について

教職員による生成 AI 利活用を促進するため、有料版 ChatGPT 利用に係る予算補助を実施した。

③デジタルサイネージ設置・運営事業について

教育・研究環境及び学生支援の一層の充実を図るとともに、学内情報・企業情報を効果的に発信するため、企業広告型のデジタルサイネージの設置・運営事業を開始し、公募の結果、令和8年4月1日から、茨友会館（3か所）、1号館1階就職進学資料コーナー前、学生寮食堂へのデジタルサイネージ設置が実現した。

④教員業績評価制度の見直しについて

教員業績評価制度を見直し、自己評価をベースに実施する面談で個別の貢献を評価するとともに、学生・教職員からの「推薦」という多面的な視点を導入した制度に改めた。

⑤総務委員会の開催 ※全日程について、運営会議との合同会議。

	開催日	議題
第1回	令和7年4月30日（水）	審議事項 1. 令和8年度概算要求の設備整備事業要求について
第2回	令和7年5月21日（水）	審議事項

		1. 「自己点検・評価シート」 総務委員会所掌業務について
第3回	令和7年6月26日（木）	審議事項 1. 総務委員会規則の一部改正について
第4回	令和7年7月16日（水）	審議事項 1. 令和6年度決算報告について 2. 令和7年度当初予算について 3. 総務委員会規則の一部改正について 4. 学生による担任評価アンケートに関する申合せの制定について 5. 茨城高専・生成AI利活用ガイドラインの制定等について ①茨城高専・生成AI利活用ガイドライン ②生成AIの利用方法と使用上の注意点 ③保護者等宛依頼等文について ・生成AI利活用に関する同意のお願い ・生成AI利活用推進について 6. FD・SD研修 生成AI利用研修の実施について
第5回	令和7年9月4日（木）	審議事項 1. メーリングリストの運用ルールについて
第6回	令和7年10月14日（火）	審議事項 1. デジタルサイネージ設置運営業務公募要領について
第7回	令和7年11月12日（水）	審議事項 1. 校内防犯カメラのネットワーク化について
第8回	令和7年12月16日（火）	報告事項 1. 令和7年度補正予算（設備整備費補助金）の採択内示について
第9回	令和8年1月13日（火）	審議事項

		1. 令和7年度担任評価アンケートの実施について その他 1. 令和8年度(編)入学生及び保護者等への入学手続書類配付について
第10回	令和8年2月16日(月)	審議事項 1. 教員業績評価に関する規則等の制定及び廃止について ①教員業績評価規則の制定について ②令和7年度教員業績評価実施要領の制定について ③令和8年度教員業績評価実施要領の制定について ④系長・部長による教員業績評価面談ガイドラインの制定について ⑤教員人事評価規則の廃止について ⑥評価領域の評価に関する要項の廃止について 2. 教職員の緊急連絡先について 報告事項 1. 令和7年度自己点検・評価に係る各種様式について
第11回	令和8年3月25日(火)	審議事項 1. 運営会議規則の一部改正について 2. 情報公開取扱要項の廃止について 3. 情報公開の実施に係る開示・不開示の審査基準の廃止について 4. 学内関係規則等の整備に関する規則の制定について 報告事項 1. 「学生による担任評価アンケート」の集計結果について 2. 茨城工業高等専門学校の組織体制図(案)について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

①学生による担任評価アンケートの実施

アンケート集計結果を教員及び学生へ周知し、今後の学級運営の一助とできるようにした。

今回のアンケートは、回答者数 556 名、回答率：54.67%であったため、次回以降は回答率がより向上するよう、アンケート実施方法等を検討していく。

②生成 AI 利活用の推進について

学生が安心して生成 AI を利活用できるよう、ガイドライン等を整備した。

一方で、生成 AI をめぐる環境の変化は激しいため、学生がより安心して生成 AI を利活用できるよう、環境の整備を実施していく必要がある。

③デジタルサイネージ設置・運営事業について

デジタルサイネージの設置により、情報発信の強化、財源確保を図ることができた。

④教員業績評価制度の見直しについて

制度の見直しにより、「数値のみの評価」から「対話と多面的な推薦による総合評価」への移行を図ることができた。公平で透明な評価制度の運用によって教員の意欲と能力を最大限に引き出すことで学校全体の教育力・研究力の向上につなげていきたい。

(3) 今後の展開

令和 7 年度は環境変化への対応、新規事業の開始、制度変更等、変化の大きな一年であったと言える。

今後は、これらについて定着を図りつつ、適切な見直しを行っていく。

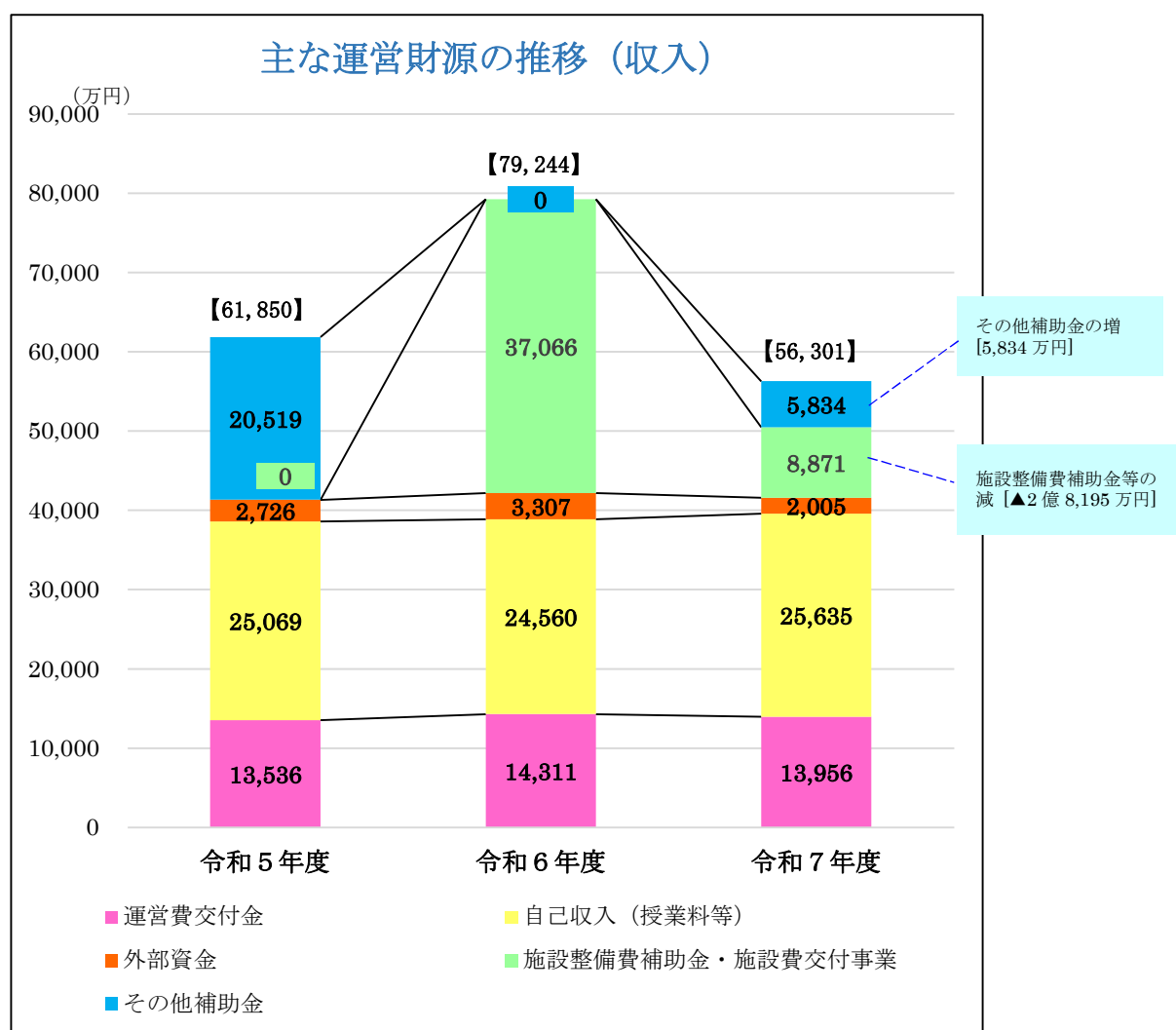
17. 予算及び施設・整備（総務委員会）

（１）取組実績

①総事業費（収入額）の概況

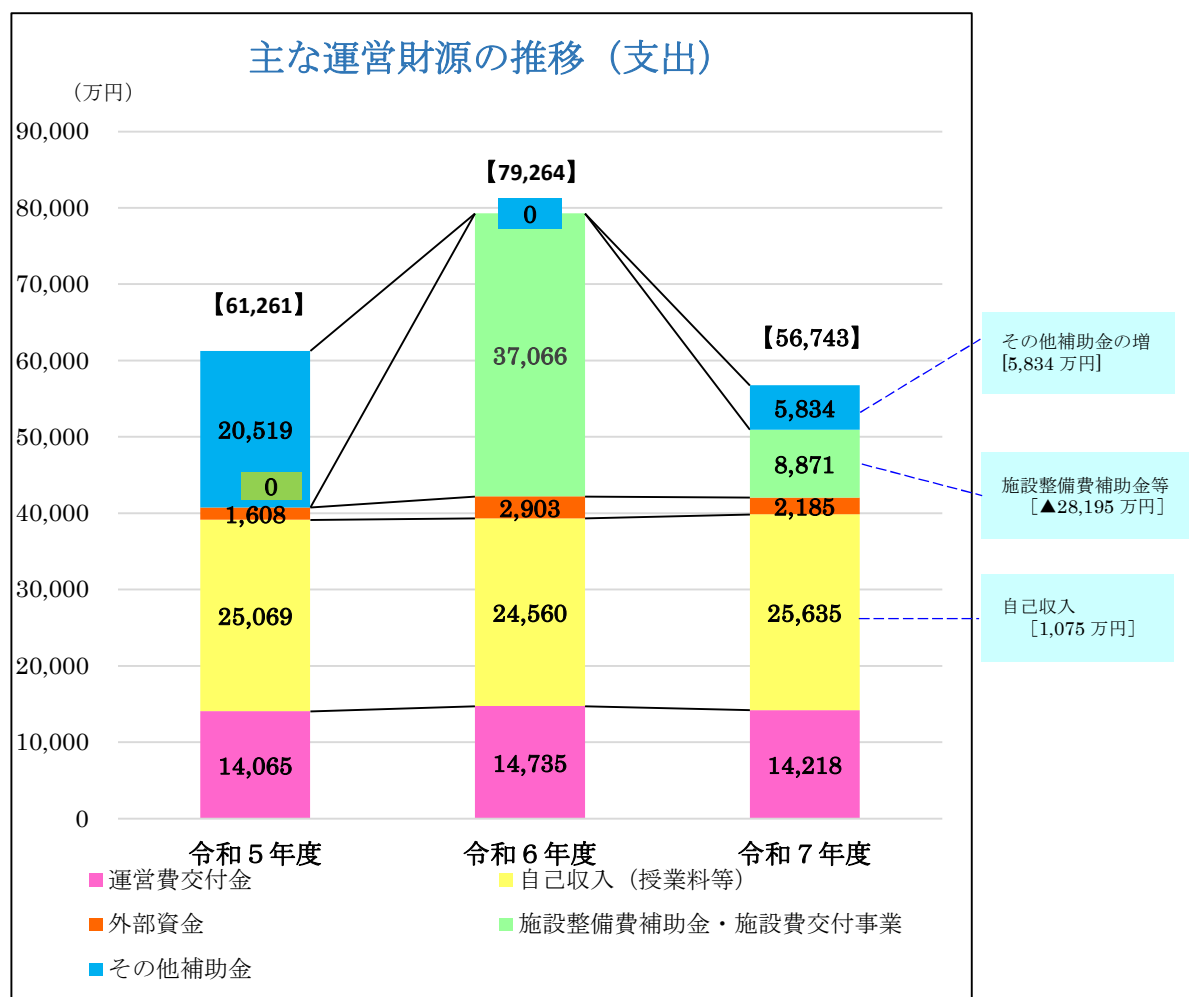
令和７年度の総事業費は、前年度より２億２,９４３万円減少し５億６千３０１万円となった。施設整備費補助金は７号館改修のあった前年度に比べて２億８,１９５万円減少（情報処理センター改修工事）したが、国からの資金が主である補助金収入（設備整備費補助金５,８３４万円増）は増加した。

また、運営費交付金収入（３５５万円減）及び外部資金（１,３０２万円減）は減少したが、自己収入は１,０７５万円増加した。引き続き自己収入の確保に努め健全な財務運営を行っている。



②総事業費（支出額）の概況

令和7年度の総事業費は、前年度より2億2,521万円減少し、5億6,743万円となった。減少の主な要因は、施設整備費補助金（情報処理センター改修工事）及び施設費交付事業（自動火災報知設備受信機取替工事）の支出である。一方で、自己収入については1,075万円の支出が増加（新入試・教務システム導入、防犯カメラ校内LAN配線、校内環境整備、非常勤職員人件費遡及分）した。



③予算

運営費交付金事業の予算については、運営費交付金算定ルールによる効率化の減額のほか物価高騰及び光熱費による厳しい支出状況のため各部・系等への配分額のうち教育研究充実費は、教員一人当たり 113 千円から 100 千円に見直しを図り、その分は校長裁量経費の研究推進経費に充当するなど教育の質が落ちないように努めた。また、決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、機構本部から配分されるインセンティブ予算や、高度化推進経費等の特別教育研究費を最大限活用した。

また、11 月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために各委員会等にヒアリングを実施し予算の集約・再配分を図った。

さらに、期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の 50%を 4 月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

外部資金の獲得については、外部機関等との積極的な連携・協力により、教育研究支援基金や共同研究、受託事業に繋げる活動を積極的に実施した。

④施設・整備

国立高専機構施設整備の中期的施設計画である「国立高専機構施設整備 5 か年計画 2021（令和 3 年度～7 年度）」により令和 6 年度当初予算にて情報処理センターの教育研究支援機能向上を含む老朽改善を目的とした改修事業が採択され、令和 7 年度に完成した。

また、国立高専機構営繕事業において 1 号館教室空調設備改修及び自動火災受信機取替工事を施工したほか、機構本部から予算配分された教育等施設基盤経費 40 百万円を施設維持管理などの施設関係に全額配分することで安心・安全な教育研究環境の確保及び高専教育の国際化への基盤整備に努めた。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、老朽化の著しい施設の改修の要求を行い、学習環境整備及び緑地管理を実施した。

（2）自己評価（改善含む）及び課題

①予算

毎年配分される運営費交付金（管理運営費等）の額は減少しているほか、施設維持管理費、物価高騰及び光熱水費の増加傾向が続く中、教育の質を維持するため本校では集約予算及び高度化推進経費を有効活用することで、教育研究活動に支障が生じないように予算を配分している。集約予算については、その大半が追加配分の教育改革推進経費で占めている為、機構本部で考えている教育改革推進経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取り組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、外部資金の導入促進など財源の多様化のための取り組みを推進し、必要な財源確保に最大限努力していくことが必要である。

また、経常経費の圧縮が喫緊の課題となり、光熱水費の抑制のほか、特に委員会等経費

については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

②施設・整備

キャンパスマスタープラン 2018 に基づき、教育研究環境の改善及びキャンパス整備を上記取組実績のとおり計画的に実施した。

なお、老朽化した既存設備については、多様な財源の活用も視野に入れ計画的に整備を行う必要があり、適切な維持管理を行い、設備の長寿命化を図る必要がある。

また、高専機構施設整備 5 か年計画 2021 が策定されたのを受け、本校戦略会議（10 年計画ワーキンググループの再構築）において施設整備計画の見直しを図りつつ、キャンパスマスタープランの更新の検討を行った。

今後は、施設整備の充実に向けた取り組みを行い、質の高い安全な教育研究環境の確保とともに、教育の高度化、国際化並びに SDGs に対応した施設整備を進める必要がある。

（３）今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、運営費交付金や学生納付金以外から多様な財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革を行っていく必要がある。

また、自己収入増加の一助として、引き続きネーミングライツ契約の増加に努め、今後、企業が参加する場（企業研究会等）で、幅広い P R 活動を行っていく。

18. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

（１）取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

①安全衛生管理

１）安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月１回安全衛生委員会を開催した。

２）職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、４Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

３）４Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

１月～２月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

②安全衛生啓発活動

各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

③心と体の健康づくり

１）健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、受診可能な者（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）は全員が受診した。

２）ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

３）感染症予防事業の実施について

感染症対策事業として、インフルエンザ予防接種を実施した。

④安全衛生教育

１）「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

2) 「実験実習安全必携」の配付

Google ドライブを活用し、全学生に対し電子データによる配付を行った。

3) 作業環境測定士の確保・充実

第二種作業環境測定士の資格を有する教員が、所定の講習を修了し、第一種作業環境測定士として登録した。

⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

1) 機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

2) 薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施した。

3) 作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

4) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

5) 金属アーク溶接等作業に係る呼吸用保護具フィットテスト

呼吸用保護具が適切に装着されていることを確認するフィットテストフィットテストを実施し、問題ないことを確認した。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。
- ② 熱中症対策や高圧ガス教育など法令等の改正により、新たな対応を求められたものがあった。法定の検査・点検等の従来から実施している事項はもとより、新たに求められる対応についても遺漏のないよう対応していきたい。
- ③ 職場巡視において指摘された事項のうち、是正されていないものが多く見受けられるため、引き続き対応を促していく。

(3) 今後の展開

今後も職場巡視等を通じて安全衛生上の課題を把握し、必要な是正および改善を継続していく。あわせて、職員の安全意識の向上を図り、より安全で働きやすい職場環境の整備に努めていく。

19. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

（１）取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に以下について所掌しており、令和7年度は次の活動を行った。

- ・自己点検・評価に係る基本方針及び実施基準等の策定、並びにその実施報告の評価に関すること。
- ・年度計画の実施報告の評価に関すること。
- ・外部評価の受審に関すること。
- ・自己点検・評価及び外部評価の公表に関すること。

①自己点検・評価に係る規則及び申合せ等の整備

- ・自己点検・評価委員会を中心とした本校の自己点検・評価、外部評価及び第三者評価の実施に係る基本方針を定めるため、「自己点検・評価、外部評価及び第三者評価の実施方針等に関する規則」の制定に向けて審議し、運営会議での承認を経て、当該規則の制定を実現した。
- ・上記規則の制定に合わせ、学校全体における自己点検・評価の基準、実施方法を定めるため、「自己点検・評価実施基準に関する申合せ」の制定に向けて審議し、運営会議での承認を経て、当該申合せの制定を実現した。

②令和7年度自己点検・評価の実施について

自己点検・評価に係る規則及び申合せ等の整備に合わせ、当該規則等の規定に基づいた自己点検・評価を開始した。

③第34回茨城工業高等専門学校参与会の開催

以下のとおり参与会を開催し、教育研究活動等の状況について、評価及び助言等の提言を受けた。

日 時： 令和7年6月26日（木）

テーマ： （１）高等専門学校機関別認証評価基準に基づく自己点検実施報告
（２）茨城工業高等専門学校60周年記念事業に係る地域との連携について
（３）個人研究発表～研究と教育を介した地域社会との連携活動～
（４）令和6年度年次報告書について（書面による評価・助言のみ）

④茨城工業高等専門学校の目的、教育理念、三つのポリシーに関する確認及び意見について

本校の目的、教育理念、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／アドミッション・ポリシー）に関する教職員の認知・理解状況を把握し、更なる理解促進を

図り、また、現行内容に対する意見・提案を収集するため、Microsoft Forms を活用して実施し、運営会議へ報告した。

⑤自己点検・評価委員会の開催

	開催日	議 題
第1回	令和7年4月23日（水）	審議事項 1. 第34回茨城工業高等専門学校参与会の開催について 2. 令和7年度自己点検・評価の実施について 3. 令和6年度 年次報告書について 4. 令和6年度年度計画実績報告の評価について
第2回	令和7年5月26日（月） （Teams 会議）	審議事項 1. 「自己点検・評価シート」自己点検・評価委員会分所掌業務について 2. 自己点検・評価委員会によるプレ審査役割分担と審査方法について
第3回	令和7年6月3日（火）	報告事項 1. 自己点検・評価委員会によるプレ審査実施方法について
第4回	令和7年6月24日（火） （Teams 会議）	審議事項 1. 令和7年度表彰候補者推薦について
第5回	令和7年7月15日（火）	審議事項 1. KIS 中期改善計画書について 2. 自己点検・評価、外部評価及び第三者評価の実施方針等に関する規則の制定について 3. 自己点検・評価実施基準に関する申合せの制定について 4. 自己点検・評価委員会申合せの廃止について （1）学生による授業アンケートに関する申合せ （2）学生による担任評価アンケートに関する申合せ （3）シラバスの作成並びに教員相互によるシラバスのチェックに関する申合せ （4）教員相互による定期試験問題等のチェック

		クに関する申合せ (5) シラバスの有効活用に関する申合せ 5. JABEE 関係申合せの廃止について (1) 他の高等教育機関等で修得した単位の「産業技術システムデザイン工学」プログラムにおける単位認定に関する申合せ (2) 専攻科入学者に係る「産業技術システムデザイン工学」プログラムの修了に必要な科目に未修得の科目がある場合の取扱いに関する申合せ (3) JABEE 認定ロゴ 2004 使用申合せ 6. 自己点検・評価委員会によるプレ審査結果(第0回)について 7. 令和7年度職員表彰候補者の推薦について
第6回	令和7年9月30日(火)	審議事項 1. 令和7年度自己点検・評価の日程再調整について 2. 令和7年度自己点検・評価委員会による確認体制について 3. 令和7年度後期自己点検・評価委員会の審議事項(予定)について
第7回	令和7年12月15日(月)	審議事項 1. 自己点検・評価委員会による審査結果(第1回)について 報告事項 1. 令和8年度機関別認証評価受審に向けての事前相談について
第8回	令和8年2月10日(火) (Teams 会議)	審議事項 1. 茨城工業高等専門学校 の 目的・教育理念・三つのポリシーに関する確認及び意見入力フォームの実施について
第9回	令和8年3月6日(金) (Teams 会議)	審議事項 1. 自己点検・評価委員会による審査結果(第2回)について
第10回	令和8年3月23日(月)	審議事項 1. 令和7年度年度計画実施報告案の評価について

		て 2. 茨城工業高等専門学校参与会規則の一部改正について 報告事項 1. 茨城工業高等専門学校の目的・教育理念・三つのポリシーに関する確認及び意見入力フォームの集計結果について 2. 令和8年度茨城工業高等専門学校参与会参与について
--	--	---

（２）自己評価（改善含む）及び課題

機関別認証評価受審を見据え、各種点検・評価体制の見直しを図った。今後はいかに日々の業務に落とし込み、定着させていくかが課題と言える。

（３）今後の展開

点検・評価は教育研究水準の向上に資することを目的として行うものである。いわゆる評価疲れや点検・評価そのものが目的とならないようにしつつ、より良い点検・評価体制の構築を目指す。

令和7年度は機関別認証評価受審を見据えて自己点検・評価を実施した。令和8年度は機関別認証評価の受審が予定されており、受審を本校の教育研究水準の向上に必要な課題の把握の機会と捉え、より強固な自己点検・評価体制構築の一助としたい。